

- 1 「情報アクセシビリティ好事例2024」一覧
- 2 「情報アクセシビリティ好事例2024」として取り上げる
主なポイント
- 3 各製品の概要・審査結果

① 「情報アクセシビリティ好事例2024」 選定製品 一覧

No	企業名	製品名	製品概要 ※各社資料より抜粋
1	株式会社グラファー	Graffer スマート申請	あらゆる行政手続きをいつでもオンラインで行うことが可能なサービス
2	東芝テック株式会社	e-BRIDGE Plus for Voice Guidance	視覚に頼らずにコピー操作ができる機能を備えた複合機
3	フリー株式会社	freee支出管理 小口現金	小口現金出納帳をデジタルで一元管理し、リアルタイムで確認することを可能にするサービス
4	フリー株式会社	freee人事労務: アプリで勤怠入力・給与明細閲覧	従業員が、日々の打刻や勤怠入力、給与明細の確認等の日常的な作業を手元で簡単に操作することができるスマートフォンアプリ
5	フリー株式会社	freee人事労務 健康管理	従業員が、ストレスチェックを受ける際、手元で簡単に操作することができ、受診等の進捗管理をデジタルで一元管理し、リアルタイムで確認することができるスマートフォンアプリ
6	プロメトリック株式会社	試験配信ソリューションの ウェブサイト	コンピュータによる試験実施(CBT/IBT)および関連するソリューションを提供している試験配信・評価ソリューションのプロバイダーの受験者・試験主催者団体向けウェブサイト
7	弁護士ドットコム 株式会社	クラウドサイン	契約書をアップロードし、相手方が承認するだけで契約を結ぶことが出来るクラウド型の電子契約サービス
8	株式会社 リモートアシスト	視覚障害者Android端末 「エルビーフォン」	目の見えづらい方にお使いいただければ様々な工夫が施されたスマートフォン。専門相談員がお客様のご希望をお伺いしてお一人ずつカスタマイズする。
9	Dynabook株式会社	アクセシビリティ向上ソフトウェア 「せっていのとびら」	教育の現場で児童・生徒の、一人ひとりの特性に合わせた設定変更が可能なアクセシビリティ向上ソフトウェア
10	株式会社Helpfeel	Helpfeel	クラウドで提供する検索性に優れたFAQシステム
11	KDDI株式会社	au Ponta ポータル	Pontaパスやau PAY、au PAYカードなどの各種サービスの利用に応じてためる、つかうことができるPontaポイントに関する情報をご案内するWebサイト
12	KDDI株式会社	auビジュアルガイド	スマートグラスを用いた映像による解説サービス
13	Nuevos Sistemas Tecnologicos S.L. dba NaviLens	NaviLens GO (ナビレンスGO)	ナビレンスコードを読み取り、視覚的かつ直接的な情報確認を可能にするアプリ
14	株式会社QDレーザ	網膜投影視覚支援機器 RETISSA ON HAND	網膜投影技術を手軽に利用できる手持ち型の視覚支援機器
15	株式会社SmarthR	スキル管理システム	従業員のスキルやそれを裏づける資格の情報を管理するシステム
16	Uni-Voice事業企画 株式会社	耳で聴くハザードマップ	視覚障害者がハザードマップの内容を理解できるよう、地図面の情報を音声で提供するサービス

② 好事例として取り上げる主なポイント

「情報アクセシビリティ好事例2024」として 取り上げる主なポイント

審査項目(1)製品の情報アクセシビリティへの配慮

以下は主な取組を抜粋し整理したものです。各社においては、記載の項目以外にも優れた取組を行っているため、各製品資料についても併せてご覧ください。

- 聴力なし、または限られた聴力での
円滑なコミュニケーションや情報へのアクセスを実現
＜主な機器・サービス＞

No	企業名	機器・サービス名
12	KDDI株式会社	auビジュアルガイド

- 高齢者を含む様々な人の
円滑なコミュニケーションや情報へのアクセスを実現
＜主な機器・サービス＞

No	企業名	機器・サービス名
1	株式会社グラファー	Graffer スマート申請
6	プロメトリック株式会社	試験配信ソリューションの ウェブサイト
7	弁護士ドットコム 株式会社	クラウドサイン
9	Dynabook株式会社	アクセシビリティ向上ソフトウェア「せ ていのとびら」
10	株式会社Helpfeel	Helpfeel
11	KDDI株式会社	au Ponta ポータル

- 視力なし、または限られた視力での
円滑なコミュニケーションや情報へのアクセスを実現
＜主な機器・サービス＞

No	企業名	機器・サービス名
2	東芝テック株式会社	e-BRIDGE Plus for Voice Guidance
8	株式会社リモートアシスト	視覚障害者Android端末 「エルビーフォン」
13	Nuevos Sistemas Tecnologicos S.L. dba NaviLens	NaviLens GO (ナビレンスGO)
14	株式会社QDLレーザ	網膜投影視覚支援機器 RETISSA ON HAND
16	Uni-Voice事業企画 株式会社	耳で聴くハザードマップ

- 障害などによらない就労を実現
＜主な機器・サービス＞

No	企業名	機器・サービス名
3	フリー株式会社	freee支出管理 小口現金
4	フリー株式会社	freee人事労務： アプリで勤怠入力・給与明細閲覧
5	フリー株式会社	freee人事労務 健康管理
15	株式会社SmarterHR	スキル管理システム

「情報アクセシビリティ好事例2024」として 取り上げる主なポイント

審査項目(2)障害当事者等のニーズを踏まえた開発

以下は主な取組を抜粋し整理したものです。各社においては、記載の項目以外にも優れた取組を行っているため、各製品資料についても併せてご覧ください。

■ 企画段階から障害当事者等の意見を踏まえた 開発や検証を行っている

<主な機器・サービス>

No	企業名	機器・サービス名
1	株式会社グラファー	Graffer スマート申請
2	東芝テック株式会社	e-BRIDGE Plus for Voice Guidance
3	フリー株式会社	freee支出管理 小口現金
4	フリー株式会社	freee人事労務: アプリで勤怠入力・給与明細閲覧
5	フリー株式会社	freee人事労務 健康管理
6	プロメトリック株式会社	試験配信ソリューションの ウェブサイト

■ 障害当事者や利用者等の意見を踏まえた 改善を行っている

<主な機器・サービス>

No	企業名	機器・サービス名
11	KDDI株式会社	au Ponta ポータル
12	KDDI株式会社	auビジュアルガイド

■ 障害当事者だけではなく、支援者や専門家等に 幅広く意見を聞いて開発を行っている

<主な機器・サービス>

No	企業名	機器・サービス名
7	弁護士ドットコム 株式会社	クラウドサイン
8	株式会社リモートアシスト	視覚障害者Android端末 「エルビーフォン」
9	Dynabook株式会社	アクセシビリティ向上ソフトウェア 「せっていのとびら」
10	株式会社Helpfeel	Helpfeel
13	Nuevos Sistemas Tecnologicos S.L. dba NaviLens	NaviLens GO (ナビレンスGO)
14	株式会社QDレーザ	網膜投影視覚支援機器 RETISSA ON HAND
15	株式会社SmartHR	スキル管理システム
16	Uni-Voice事業企画 株式会社	耳で聴くハザードマップ

「情報アクセシビリティ好事例2024」として 取り上げる主なポイント

審査項目(3)企業としての情報アクセシビリティ確保に向けた取組

以下は主な取組を抜粋し整理したものです。各社においては、記載の項目以外にも優れた取組を行っているため、各製品資料についても併せてご覧ください。

■ 情報アクセシビリティに関して、全社としての考え方 や方針・ルールを策定し、共有している

＜主な機器・サービス＞

No	企業名	機器・サービス名
6	プロメトリック株式会社	試験配信ソリューションの ウェブサイト
11	KDDI株式会社	au Ponta ポータル
12	KDDI株式会社	auビジュアルガイド

■ 全社で標準的にアクセシビリティについて取り組む ための仕組みを構築している(レビュー体制、専門部署、 相談窓口等)

＜主な機器・サービス＞

No	企業名	機器・サービス名
1	株式会社グラファー	Graffer スマート申請
3	フリー株式会社	freee支出管理 小口現金
4	フリー株式会社	freee人事労務： アプリで勤怠入力・給与明細閲覧
5	フリー株式会社	freee人事労務 健康管理
7	弁護士ドットコム 株式会社	クラウドサイン
15	株式会社SmartHR	スキル管理システム

■ 企業の方針に、ダイバーシティやインクルージョン、 人に寄り添う等の事項を掲げている

＜主な機器・サービス＞

No	企業名	機器・サービス名
8	株式会社リモートアシスト	視覚障害者Android端末 「エルビーフォン」
9	Dynabook株式会社	アクセシビリティ向上ソフトウェア 「せっていのとびら」

■ 企業として障害当事者や障害者団体と連携する等の 当事者ニーズを取り込む枠組を構築している

＜主な機器・サービス＞

No	企業名	機器・サービス名
14	株式会社QDLレーザ	網膜投影視覚支援機器 RETISSA ON HAND
16	Uni-Voice事業企画 株式会社	耳で聴くハザードマップ

■ 企業内で情報アクセシビリティの理解促進に向けた 活動を行っている(勉強会、研修等)

＜主な機器・サービス＞

No	企業名	機器・サービス名
2	東芝テック株式会社	e-BRIDGE Plus for Voice Guidance
10	株式会社Helpfeel	Helpfeel
13	Nuevos Sistemas Tecnologicos S.L. dba NaviLens	NaviLens GO (ナビレンスGO)

③ 各製品の概要・審査結果

1. 株式会社グラファー Graffer スマート申請

株式会社グラファー Graffer スマート申請

企業名	株式会社グラファー
機器・サービス名	Graffer スマート申請
問合せ先	https://graffer.jp/governments/contact
機器・サービスの概要	Graffer スマート申請は、あらゆる行政手続きをいつでもオンラインで行うことが可能なサービスです。
機器・サービスの 特徴	1. 機器・サービスの機能 - 役所に足を運ばずに、スマートフォン、パソコン、タブレットを使用して、電子署名アプリによる本人確認から決済まですべてオンラインで手続きが可能です。 - 利用者が作業中の内容を一時的に保存し、後で再開することができるように一時保存機能（Grafferアカウントを利用した場合）を提供しています。 2. 情報アクセシビリティの配慮内容 - WCAG 2.1のレベルAAに沿ったコントラスト比を採用し、多様な視覚特性を持つ方々にとって見やすいように配慮しています。 - タップ領域を大きく設計することで、様々な身体特性を持つ方々が利用しやすくなるように配慮しています。 - キーボードのみで操作可能とし、手続き内容の入力から申請まで行えるよう設計しています。

株式会社グラファー Graffer スマート申請

入力画面

9:41 東市 ネット手続き

出産・子育て応援交付金申請書

入力の状況 25%

入力フォーム

申請者の情報

名前 必須
東 太郎

名前(カナ) 必須
アズマ タロウ

郵便番号 必須
ハイフンなしの半角7桁で入力してください
1510051

郵便番号から住所を入力

① 「郵便番号から住所を入力」を押すと、住所の一部が自動入力されます。

署名画面

9:41

マイナンバーカードの読み取り

1. カードを机に置きます。
2. 下の図のように、「顔写真の上辺」と「iPhoneの画面上部」をぴったり重ねて動かさないようにします。

スキヤンの準備ができました

マイナンバーカードとiPhoneはぴったり重ねて動かさないでください。5〜10秒で読み取りが完了します。

キャンセル

決済画面

9:41 東市 ネット手続き

支払い方法

ご利用可能なクレジットカード
VISA JCB ① ② ③ ④ ⑤

カード番号 必須
1234 5678 9012 3456

月 必須 年 必須
選択 選択

セキュリティコード 必須
123

変更する

キャンセル

このお手続きの申請には以下の支払いが請求されます。

費目 金額

確認画面

9:41 東市 ネット手続き

出産・子育て応援交付金申請書

入力の状況 100%

申請内容の確認

申請者の情報

申請者の種別
個人

名前
東 太郎

名前(カナ)
アズマ タロウ

郵便番号
1510051

住所
東京都渋谷区千駄ヶ谷1-5-8 ジュニア千駄ヶ谷ビル2F

※年月日 (西暦)

株式会社グラファー Graffer スマート申請

当事者ニーズを 踏まえた開発

- 社内にいる色弱の当事者からフィードバックを受け、コントラスト比も含めて色の設計を行い、直感的で使いやすいものとなるように努めています。
- 社外の全盲の当事者にテストを行っていただき、直感的に操作できるか、問題なく利用できるかを確認し、テスト段階で指摘された改善点に対しては、優先的に対応し、ユーザーが安心して利用できるインターフェースを追求しています。
 - 取組を記事として掲載しています。
 - <https://graffer.jp/govtech/articles/accessibility-3>
- 本サービスにはフィードバック機能があり、ユーザーからのフィードバックを基に改善を行っています。

企業としての 組織的な取組

- アクセシビリティに配慮したデザインシステムを採用しており、このシステムは各サービスの開発において活用されています。このデザインシステムは、ユーザーにとっての使いやすさを重視し、視覚や聴覚に障害を持つ方々にもアクセスしやすいインターフェースを提供するために設計されています。
- アクセシビリティの確保と向上を目的とした社内横断的なチームが設置されています。このチームは、各部門と連携しながら、各サービスがアクセシビリティ基準を満たしているかを確認しています。開発プロセスの中では、機械的に確認できる内容については自動チェックを実施する仕組みを導入しており、定期的に行われる人によるチェックも併せて、課題を洗い出し、改善策を講じることで、アクセシビリティの向上に努めています。

1 当事者・開発者の視点でみたときに、アクセシビリティ配慮として評価できる点

a. 製品が提供する価値

- 本製品により、誰もが利用できることが望ましい行政手続きのアクセシビリティが向上することが期待できる。
- オンラインでの行政の手続きを、障害者だけでなく高齢者にとっても容易にしている。
 - ✓ 視覚障害者だけでなく、さまざまな困難がある人が自分のペースで申請が可能になる。
 - ✓ 移動等の社会的障壁を確実に除去している。

b. 機能面でのアクセシビリティ配慮

- スマホやタブレットで、自宅でも申請手続きを簡単に行うことができる。
- 電子署名アプリなどにも対応している。

2 当事者ニーズを踏まえた開発について、優れている点

- 社外の全盲者からのフィードバックやテストを実施し、テストの様子は情報公開している。
- 視覚障害の当事者による運用を通して受けたフィードバックもとに、さらに改善を続ける努力をしている。

3 企業としての取組について、優れている点

- ・ アクセシビリティに配慮したデザインシステムを構築し、開発の品質向上や二度手間を防ぐなどの努力をしている。開発プロセスにおいては人の手によるチェックを併せて行っている。
- ・ アクセシビリティについて、社内横断的なチームが設置されアクセシビリティを日常から意識した開発を行っている。

4 当事者にとって重要であるが、今後更なる配慮が期待される点(今後期待したい点)

a. 製品が提供する価値

- ・ 社外の当事者による第三者的な視点でのチェックをより行うことで、新たな課題や改善点を見いだすことを期待する。

b. 機能面でのアクセシビリティ配慮

- ・ 手話によるガイド、行政用語が苦手な人を想定したやさしい日本語によるガイドの導入、申請がスムーズにできなかった場合の聴覚障害者からの対応方法の充実、重度障害者への配慮を期待する。
- ・ 特に聴覚障害者にとって、どのようなメリットがあるのかが分かりにくく、ウェブコンテンツの分かりやすさを向上させることを期待する。

c. その他(普及のための周知広報、体制構築など)

- ・ 全国の130程度の自治体に導入されており、同製品のアクセシビリティの向上が与える影響が非常に大きいと考えられる。将来は多様な人が電子申請を利用できるようになることが期待される。
- ・ 自治体の理解を得ることや、より多くの自治体に導入されるための啓発活動を期待する。
- ・ 行政側のシステム改善を促すことで、プラットフォーム事業者としての責任を果たすことを期待する。

2. 東芝テック株式会社

e-BRIDGE Plus for Voice Guidance

企業名	東芝テック株式会社
機器・サービス名	e-BRIDGE Plus for Voice Guidance
問合せ先	ワークプレイス・ソリューション事業本部 マーケティング・デザイン部 駒宮 Yuko_Komamiya/atmark/toshibatec.co.jp (注)スパムメール防止のため「@」を「/atmark/」と表記しています。
機器・サービスの概要	東芝テック株式会社では、複合機の一部の機種には、視覚に頼らずにコピー操作ができる機能を備えています。この機能は「e-BRIDGE Plus for Voice Guidance」といい、2022年度グッドデザイン賞を受賞しました。汎用スピーカーを本体に接続し、ご利用いただけます。
機器・サービスの特徴	1. 機器・サービスの機能 ● 音声ガイダンスと操作パネル上の任意の位置で行う、タップ、ダブルタップ、上下スワイプの操作でコピー設定ができるユーザインタフェースです。 ● 上下スワイプで機能を切り替え、音声ガイダンスで切り替えられた機能と設定内容を読み上げます。タップで項目内容を再度聞くことができ、ダブルタップで設定画面に遷移したり、機能が実行されたりします。 ● 部数設定やカラー設定、両面設定、コピースタート・キャンセル、音声ガイダンスの音量やスピードの設定も可能です。 2. 情報アクセシビリティの配慮内容 ● 音声ガイダンスと液晶パネル上の任意の場所でのタップ、ダブルタップ、上下スワイプのみの操作、また、本アプリの起動は、コントロールパネル上にあるハードキーに割付可能で、視覚を全く用いずに操作・起動が可能 ● 視覚を用いないユーザ、限られた視覚のユーザ、操作を援助する晴眼者の各ユーザが理解しやすいUIを目指し、大きい文字、誰でも認識しやすい黄色いフォーカス色、シンプルな画面デザインを実装 ● 音声ガイダンスの音量・スピードは各々10段階。最初の操作説明の入・切も設定可能 ● e-BRIDGE Plus for Voice Guidanceは無償アプリ、汎用スピーカーをUSEで接続することでご利用いただけます。特別なオプションなど不要ですので、比較的安価にご利用可能

部数を2部に設定する操作やUI例(一部抜粋)

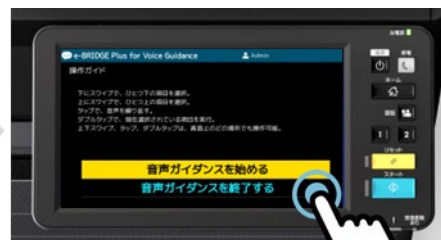


操作1: e-BRIDGE Plus for Voice Guidanceを割付けた、ファンクションキーを押下



タップ

操作2: 画面の任意の場所をタップし、本アプリケーションを起動



ダブルタップ

操作3: アプリのトップ画面に遷移、次の音声ガイダンスが流れます。「操作ガイド 下にスワイプで、ひとつ下の項目を選択。上にスワイプで、ひとつ上の項目を選択。タップで、音声を繰り返す。ダブルタップで、現在選択されている項目を実行。上下スワイプ、タップ、ダブルタップは、画面のどの位置でも操作可能。音声ガイダンスを始める が選択されています。」そして、ダブルタップで画面が遷移します。



下にスワイプ

操作4: 「音声操作トップ コピースタートが選択されています」というガイダンスが流れ、下にスワイプしてコピー設定を選択、ダブルタップでコピー設定トップに遷移します。



ダブルタップ

操作5: 「コピー設定 部数1 が選択されています」という音声ガイダンスが流れ、ダブルタップで部数設定画面に遷移します。



上にスワイプ

操作6: 「部数設定 1 上下スワイプで部数変更、ダブルタップで決定」という音声ガイダンスが流れ、上にスワイプで 2 とガイダンスが流れ、部数は2が選択されます。



ダブルタップ

操作7: そして、ダブルタップで確定され、コピー設定トップに戻るように画面が遷移します。



操作8: 「コピー設定 部数2 が選択されています」とガイダンスが流れます。この画面にコピースタート機能もアサインされていますので、上下スワイプで選択し、ダブルタップでコピーの実行操作ができます。また、必要な画面にはキャンセル、リセット機能もあります。

当事者ニーズを 踏まえた開発

- 新人研修で、当社/他社機を並べて操作比較を行うユーザビリティ評価に加え、重度弱視の新入社員によるアクセシビリティ評価を実施しました。
- 一方、米国や欧州のアクセシビリティ基準や国際標準へ準拠した製品開発が始まり、重度弱視社員のオフィス機器操作についてヒアリングを実施しました。
 - ✓ プログラミング業務は、音声リーダー/点字表示器を駆使してPCを操作
 - ✓ スマートフォンの使い方や操作性について意見交換
- 重度弱視社員も開発に参加、基本UI案などを検討/考案しました。視覚障がい者が日常的に操作するスマートフォンに近いUIを目指しました。
 - ✓ 外付けスピーカーからの音声ガイダンスと画面の任意の場所での上下スワイプ・タップ・ダブルタップによる操作を、プロトタイプで検証
- UIを改善し、当社海外現地法人にPC上で操作できるプロトタイプを提供しました。海外でもUIは概ね好評で、6か国対応となりました。

企業としての 組織的な取組

- 新人研修において、各社デジタル複合機のユーザビリティ評価やアクセシビリティ評価を行い、入社時から知見を深める活動をしている。

1 当事者・開発者の視点でみたときに、アクセシビリティ配慮として評価できる点

a. 製品が提供する価値

- この製品の導入により、視覚障害者も複合機の利用ができるようになることの意義は大きい。

b. 機能面でのアクセシビリティ配慮

- 音声UIでコピーへのアクセシビリティを確保している。視覚障害者が直面しがちなバリアを十分に把握し、アクセシビリティだけでなく安心して使用できるユーザビリティも高めたと考えられる点は評価できる。
- スマートフォンで一般化した馴染みのある操作で、操作の習得が容易である。

2 当事者ニーズを踏まえた開発について、優れている点

- 社内の視覚障害者の実績や見識を十分に取り入れ、何度も検討を重ねることで、アクセシビリティの確実な向上に取り組んでいる。また、それらの知見から、障害者が一般的に使用しているスマホ等の使い勝手と親和性がある操作としている。
- 各国現地法人の意見も組み込んでいる。

3 企業としての取組について、優れている点

- 障害者が研究所に配属されているなど、インクルーシブな人事配置を行っている。
- デジタル複合機のアクセシビリティに特化した研修によって専門性を高めている。
- 視覚障害のある社員のニーズや要望を可能な限り取り入れる努力をし、かつその社員との対等性に基づいた共同開発のプロセスがなされている。
- 新入社員研修において、各社のユーザビリティ評価を行う等、知見を深める活動をしている。

4

当事者にとって重要であるが、**今後更なる配慮が期待される点**(今後期待したい点)

a. 製品が提供する価値

- ・ 複合機が持つコピー以外の機能(FAX送受信、住民票など行政書類の取得など)にも対応することで、視覚障害者がより幅広く利用できるようにすることを期待する。
- ・ コピー機全体を操作したりトラブル対応することを想定し、視覚障害者にとって不安を全く感じずにコピー機の状態を把握し、対処できるように更なる発展を期待する。

b. 機能面でのアクセシビリティ配慮

- ・ 利用者の習熟度に応じて音声ガイダンスの読み上げ速度を調整できる機能を期待する。
- ・ 音声専用画面が晴眼者と共通のUIではなく、社内の視覚障害者1名の評価に依存している可能性があるため、より多くの視覚障害者のニーズを把握することを期待する。
- ・ 印刷されたものが正しく出力されているかを視覚障害者が確認する方法を期待する。
- ・ アプリケーションがプリインストールされておらず、利用するために設定変更が必要である。利用者が簡単に切り替えられる仕組みを期待する。
- ・ 視覚障害者が安心して複合機を操作できるよう、操作性やトラブル対応の改善を期待する。

3. フリー株式会社 freee支出管理 小口現金

フリー(株) freee支出管理 小口現金

企業名	フリー株式会社
機器・サービス名	freee支出管理 小口現金
問合せ先	freee 合理的配慮お問い合わせ窓口 (メールアドレス disability-support/atmark/freee.co.jp) (注)スパムメール防止のため「@」を「/atmark/」と表記しています。
機器・サービスの概要	本サービスは、従来は紙で運用されていた小口現金出納帳をデジタルで一元管理し、リアルタイムで確認することを可能にしました。小口現金で支払いをした領収証をアップロードするだけでfreee会計の取引データに自動連携され、管理コストが軽減されます。
機器・サービスの特徴	1. 機器・サービスの機能 - スマートフォン・タブレットで、領収書やレシートを写真撮影・電子保管が可能です。 - 電子化した領収書をAIが読み取り、自動的に仕訳と小口現金出納帳を作成します。 - 店舗や支店の従業員が撮影した領収書から、自動的にfreee会計に取引を連携できるため、本社へ書類を郵送が不要になります。 - 小口現金の実残高・帳簿残高をリアルタイムで確認できるため、店舗や支店からの書類郵送を待たずとも、本社からの残高チェックがいつでも可能です。 2. 情報アクセシビリティの配慮内容 - PC・スマートフォン・タブレットのアクセシビリティ機能を活かせるよう設計・実装し、スクリーンリーダーにも対応しているため、様々な環境下で利用できます。 - 運動障害や視覚障害などで据え置き型のスキャナの利用が困難な場合でも、スマートフォンやタブレットのアクセシビリティ機能を活かしてレシート等の読み取りが可能です。 - 高齢者・障害者が作業する際、紙中心の作業からデジタル化＋アクセシビリティ機能の活用に移行することで、証憑確認や内容転記の負担が大幅に削減されると想定します。

フリー(株) freee支出管理 小口現金

free 支出管理 | 小口現金

goma NanaFurusawa

五反田店

2024年12月

残高が一致しています

帳簿残高 32,260円

現金残高 32,260円

利用日	入金	出金	帳簿残高	現金残高	勘定科目	添付	取引先	備考
12/2	50,000	0	48,630	48,630	雑収入			
12/7	0	1,370	47,260	47,260	原材料			
12/11	0	5,600	41,660	41,660	水道光熱費			
12/18	0	9,400	32,260	32,260	原材料			
総計	50,000	16,370						

50件 1 - 4 / 4

free 支出管理 | 小口現金

五反田店

2024年12月

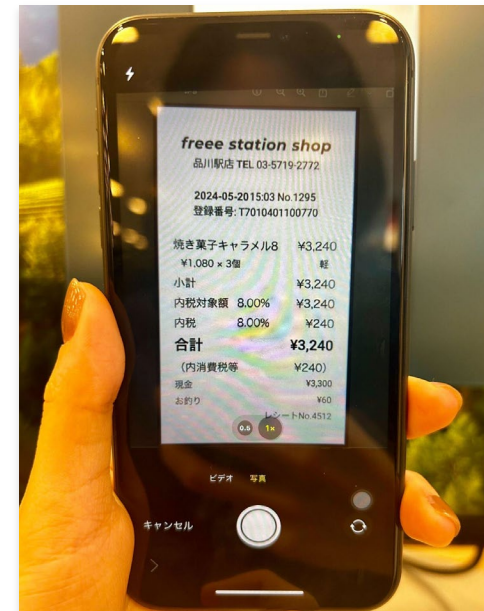
残高が一致しています

帳簿残高 32,260円

現金残高 32,260円

利用日	入金	出金	帳簿残高	現金残高	勘定科目
12/2	50,000	0	48,630	48,630	雑収入
12/7	0	1,370	47,260	47,260	原材料
12/11	0	5,600	41,660	41,660	水道光熱費
12/18	0	9,400	32,260	32,260	原材料
総計	50,000	16,370			

50件 1 - 4 / 4



小口現金出納帳の画面と実際にサービス上でレシートを撮影する際の画面です。

フリー(株) freee支出管理 小口現金

当事者ニーズを 踏まえた開発

- 視覚障害当事者かつアクセシビリティ専門家のメンバーと共に、WCAGベースのアクセシビリティガイドラインおよびチェックリストを開発・運用
- 当該ガイドラインおよびチェックリストに則り、製品開発チームごとにチェックを実施
- そのチェック結果の妥当性を前述の専門家とともに週次レビュー
- 全盲の障害当事者によるスクリーンリーダーチェックおよび改善点の起票を実施
- freee社内でfreee製品を実際に使用。freee社内には障害当事者が複数名在籍しており、社内ユーザーからのフィードバックにより製品改善に取り組んでいる
- 障害当事者による利用事例の積極的な把握を行い、同時に事例記事化してウェブで公開

企業としての 組織的な取組

- アクセシビリティ専任メンバーの存在
- 全社員向けに、入社時にアクセシビリティオンボーディングを実施
- アクセシビリティを考慮したデザイン・実装コンポーネントの作成
- アクセシビリティガイドライン・チェックリストの制定と公開
- ガイドライン・チェックリストの全プロダクトでの運用
- 合理的配慮の対応方針および問い合わせ窓口の設置

参考：[アクセシビリティ | freee](#)

1 当事者・開発者の視点でみたときに、アクセシビリティ配慮として評価できる点

a. 製品が提供する価値

- ・ 小口現金サービスといった小規模の会社にとって重要な経理のアクセシビリティを確保する考えは、障害者や高齢者の就労を考える上で重要である。
- ・ これまで紙により行うことが多かった小口現金に関する事務手続きが、このシステムを利用することで、視覚障害者も取り扱えるようになることは非常に期待できる。

b. 機能面でのアクセシビリティ配慮

- ・ 転記作業等の業務上の障壁を除去し、認知的負担が少なく容易に使える設計にするなど、アクセシビリティを確保している。
- ・ 証憑をスマホ、タブレットで撮影して読み取れるため、高齢者や障害者も作業が容易にできる。

2 当事者ニーズを踏まえた開発について、優れている点

- ・ 転記作業等で業務上の障壁になっている事実に着目し、当事者のニーズを踏まえて実用に耐えうるものとして開発している。
- ・ 障害のある社員(アクセシビリティの専門家)の意見を反映し、また、システムの開発・更新にも参加して取り組んでいる。
- ・ WCAGベースの自社アクセシビリティガイドラインを使用し、全盲当事者による検証をもとに改善をしている。

3 企業としての取組について、優れている点

- 企業全体としてアクセシビリティ対応を徹底して製品開発する姿勢を有している。
 - ✓ WCAGベースのガイドライン・チェックリストを設け、公開。
 - ✓ アクセシビリティ問題が発生しにくいパーツを開発して、それを組み合わせて製品化することでアクセシビリティ問題を抑制する開発戦略をとっている。
 - ✓ 社内チェックリストの作成や、全職種の全メンバーを対象とした社員全員に対するアクセシビリティ研修を実施。
 - ✓ 合理的配慮の問い合わせ窓口および様々な部署で構成された合理的配慮委員会を設けて、個別の対応について議論する場を用意。また、これにより、いわゆる特定の部署への依存状態を作らず、会社全体であらゆる段階から取り組んでいくプロジェクト的な体制の整備につながっている。

4 当事者にとって重要であるが、今後更なる配慮が期待される点(今後期待したい点)

a. 製品が提供する価値

- ・ 障害者や高齢者が現場でこのシステムを利用する際の具体的な配慮が明らかになることを期待する。
- ・ 障壁の除去により、障害者の業務に与える副次的効果が明らかになることを期待する。

b. 機能面でのアクセシビリティ配慮

- ・ 操作に熟練した専門家だけでなく、初心者障害のあるユーザーなども含めたテストを期待する。
- ・ 貴社の製品ごとに、VoiceOver、NVDA、Talkbackへの対応が異なっているが、一貫性確保を期待する。
- ・ システムの評価について、視覚障害者向けのビジネス技能訓練施設と連携することを期待する。
- ・ 証憑をスマホ、タブレットで撮影する手法は様々なところで取り入れられているので、さらにアクセシビリティに配慮した改善を期待する。

4. フリー株式会社

freee人事労務:アプリで勤怠入力・給与明細閲覧

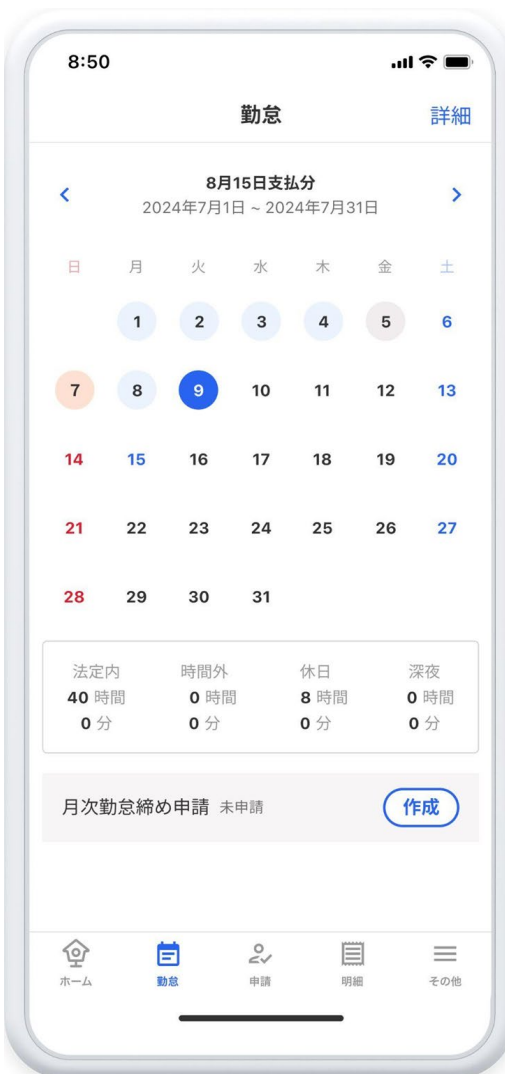
フリー(株) freee人事労務:アプリで勤怠入力・給与明細閲覧

企業名	フリー株式会社
機器・サービス名	freee人事労務:アプリで勤怠入力・給与明細閲覧
問合せ先	freee 合理的配慮お問い合わせ窓口 (メールアドレス disability-support/atmark/freee.co.jp) (注)スパムメール防止のため「@」を「/atmark/」と表記しています。
機器・サービスの概要	本スマートフォンアプリは、高齢者・障害者を含めた企業や組織で働く従業員が、日々の打刻や勤怠入力、給与明細の確認等の日常的な作業をスマートフォンで行う場面において、手元で簡単に操作することができます。※Web利用による障害当事者の管理業務実績あり
機器・サービスの特徴	1. 機器・サービスの機能 ● 日々の出勤打刻、勤怠修正:スマートフォンアプリのトップ画面から簡単に日々の出勤打刻をすることができます。打刻を忘れた時や修正したい時は、画面に従って入力することで正しい勤怠情報に変更することが可能です。 ● 給与明細、賞与明細の確認:配布された給与明細や賞与明細を確認できます。 ● 年末調整の提出、申請や承認依頼の処理:労務担当者からの年末調整の提出依頼や、身上変更の届出などの依頼をすることができます。 2. 情報アクセシビリティの配慮内容 ● VoiceOver/TalkBackへの対応:全ての情報の閲覧・操作がスクリーンリーダーで行えます。紙では内容確認や作業が困難な場合でも、本アプリであれば業務が行えます。 ● 文字サイズ・ボタンサイズへの配慮:目の不自由な方や指が震える等の特徴を持っている方も、精密なタップができるよう配慮しています。 ● 外国語への対応:外国人労働者を雇用している事業所でも活用できるよう、OSの言語設定を判別し、アプリ内のテキストを日本語版・英語版に切り替えることができます。

フリー(株) freee人事労務:アプリで勤怠入力・給与明細閲覧



打刻画面



勤怠カレンダー画面



給与明細画面

当事者ニーズを踏まえた開発

- 視覚障害当事者かつアクセシビリティ専門家のメンバーと共に、WCAGベースのアクセシビリティガイドラインおよびチェックリストを開発・運用
- 当該ガイドラインおよびチェックリストに則り、製品開発チームごとにチェックを実施
- そのチェック結果の妥当性を前述の専門家とともに週次レビュー
- 全盲の障害当事者によるスクリーンリーダーチェックおよび改善点の起票を実施
- freee社内でfreee製品を実際に使用。freee社内には障害当事者が複数名在籍しており、社内ユーザーからのフィードバックにより製品改善に取り組んでいる
- 障害当事者による利用事例の積極的な把握を行い、同時に事例記事化してウェブで公開

企業としての組織的な取組

- アクセシビリティ専任メンバーの存在
- 全社員向けに、入社時にアクセシビリティオンボーディングを実施
- アクセシビリティを考慮したデザイン・実装コンポーネントの作成
- アクセシビリティガイドライン・チェックリストの制定と公開
- ガイドライン・チェックリストの全プロダクトでの運用
- 合理的配慮の対応方針および問い合わせ窓口の設置

参考:[アクセシビリティ | freee](#)

1 当事者・開発者の視点でみたときに、アクセシビリティ配慮として評価できる点

a. 製品が提供する価値

- 勤怠管理は、毎日の繰り返し作業になるので、自らできることが望ましい。日々の打刻や勤怠入力、給与明細の確認等のシステムに当事者も自ら入力できる試みは素晴らしい。
- 幅広い障害の社員を想定して開発している点が評価できる。

b. 機能面でのアクセシビリティ配慮

- 全盲者向けに読み上げ機能を有している。また、弱視者向けに使用頻度の高い数字やボタンを大きくし、扱いやすくしている等、今まで自力操作/確認ができなかった視覚障害者にとっても使いやすい配慮がされている。また、外国人に対応し、OSの言語設定を反映できるようにしている。
- 肢体不自由の方への対応として、指の震え等にも配慮した製品開発への取組を行っている。
- 人事労務関係で知的障害、運動機能障害など障害種にかかわらずアプリを利用できるようアクセシビリティに配慮し、すでに実用実績を有している点、またその管理業務を担う障害者による利用実績も有している点が評価できる。

2 当事者ニーズを踏まえた開発について、優れている点

- 障害のある社員の意見を反映し、また、開発・更新にも参加を得てシステムを開発している。
- WCAGベースの自社アクセシビリティガイドラインを使用し、全盲当事者による検証をもとに改善をしている。
- 様々な障害種のある社員を採用していることを強みとして生かしてデザインの段階から非常にアクセシビリティを意識した開発を進めている。

3 企業としての取組について、優れている点

- 企業全体としてアクセシビリティ対応を徹底して製品開発する姿勢を有している。
 - ✓ WCAGベースのガイドライン・チェックリストを設け、公開。
 - ✓ アクセシビリティ問題が発生しにくいパーツを開発して、それを組み合わせて製品化することでアクセシビリティ問題を抑制する開発戦略をとっている。
 - ✓ 社内チェックリストの作成や、全職種の全メンバーを対象とした社員全員に対するアクセシビリティ研修を実施。
 - ✓ 合理的配慮の問い合わせ窓口および様々な部署で構成された合理的配慮委員会を設けて、個別の対応について議論する場を用意。また、これにより、いわゆる特定の部署への依存状態を作らず、会社全体であらゆる段階から取り組んでいくプロジェクト的な体制の整備につながっている。

4 当事者にとって重要であるが、今後更なる配慮が期待される点(今後期待したい点)

a. 製品が提供する価値

- 人事労務アプリの運用に関して残されている課題が明らかになることを期待する。

b. 機能面でのアクセシビリティ配慮

- 操作に熟練した専門家だけではなく、初心者の方の障害のあるユーザーなども含めたテストを期待する。
- 貴社の製品ごとに、VoiceOver、NVDA、Talkbackへの対応が異なっているが、一貫性確保を期待する。
- システムの評価について、視覚障害者向けのビジネス技能訓練施設と連携することを期待する。
- 人事労務をスマートフォンで対応できる点は従業員の利便性にとっても有効と評価できるが、障害特性にしっかり適応し、部分的対応を改善されることを期待する。

5. フリー株式会社 freee人事労務 健康管理

フリー(株) freee人事労務 健康管理

企業名	フリー株式会社
機器・サービス名	freee人事労務 健康管理
問合せ先	freee 合理的配慮お問い合わせ窓口 (メールアドレス disability-support/atmark/freee.co.jp) (注)スパムメール防止のため「@」を「/atmark/」と表記しています。
機器・サービスの概要	本サービスは、高齢者・障害者を含めた企業や組織で働く従業員が、ストレスチェックを受ける際、手元で簡単に操作することができます。また、従来は紙で運用されていたストレスチェックや健康診断の受診進捗管理をデジタルで一元管理し、リアルタイムで確認することを可能にしました。
機器・サービスの特徴	1. 機器・サービスの機能 ・ ストレスチェック: スマートフォンやPCでストレスチェックの受検が可能です。 ・ 健康診断: 健康診断受診の依頼やリマインドができるので、従業員が忘れずに受診することが可能になります。また、健康診断の判定項目を入力・保管でき、さらに異常ありの判定が出ている従業員へ健康診断の再受診の勧奨を簡単に行うことが可能です。 2. 情報アクセシビリティの配慮内容 ・ VoiceOver/TalkBackへの対応: ストレスチェックの回答操作がスクリーンリーダーで行えます。紙での内容確認や作業が困難な場合でも、本サービスであれば回答が行えます。 ・ 文字サイズ・ボタンサイズへの配慮: 目が不自由な方でも、回答がしやすいよう配慮しています。 ・ 外国語への対応: 外国人労働者を雇用している事業所でも活用できるよう、テキストを日本語版・英語版に切り替えることができます。 上記により、視覚障害者、肢体不自由者、精神障害者、車いすユーザー、外国語話者といったfreeeの社員が実際に本製品を利用しています。

VoiceOver/TalkBackへの対応、文字サイズ・ボタンサイズへの配慮、外国語への対応

スマートフォンWeb画面

The image shows a smartphone screen displaying the 'ストレスチェック' (Stress Check) survey in Japanese. The interface is accessible, with large text and clear buttons. At the top, there's a status bar showing the time 13:58 and network status. Below the browser address bar (p.secure.freee.co.jp), there's a language selection menu with '日本語' (Japanese) selected. The survey content includes two questions about workload and time pressure, each with four radio button options: 'そうだ' (That's right), 'まあそうだ' (Somewhat right), 'やや違う' (Somewhat different), and '違う' (Different). At the bottom, there are buttons for '提出' (Submit), '保存' (Save), and a progress indicator '回答状況: 0/57問'.

英語版の回答画面

The image shows a desktop monitor displaying the 'Stress Check Survey' in English. The interface is clean and professional. The title 'Stress Check Survey' is at the top right. Below it, there's a section 'About the job' with a sub-header 'We would like to ask you about your work. Please select the most applicable one. Required'. The survey consists of eight numbered items, each with four radio button options: 'Very much so', 'Moderately so', 'Somewhat', and 'Not at all'. The items are: 1. I have an extremely large amount of work to do, 2. I can't complete work in the required time, 3. I have to work as hard as I can, 4. I have to pay very careful attention, 5. My job is difficult in that it requires a high level of knowledge and technical skill, 6. I need to be constantly thinking about work throughout the working day, 7. My job requires a lot of physical work, and 8. I can work at my own pace. At the bottom, there are 'Submit' and 'Save' buttons, and a progress indicator 'Progress: 0/57'.

フリー(株) freee人事労務 健康管理

当事者ニーズを 踏まえた開発

- 視覚障害当事者かつアクセシビリティ専門家のメンバーと共に、WCAGベースのアクセシビリティガイドラインおよびチェックリストを開発・運用
- 当該ガイドラインおよびチェックリストに則り、製品開発チームごとにチェックを実施
- そのチェック結果の妥当性を前述の専門家とともに週次レビュー
- 全盲の障害当事者によるスクリーンリーダーチェックおよび改善点の起票を実施
- freee社内でfreee製品を実際に使用。freee社内には障害当事者が複数名在籍しており、社内ユーザーからのフィードバックにより製品改善に取り組んでいる
- 障害当事者による利用事例の積極的な把握を行い、同時に事例記事化してウェブで公開

企業としての 組織的な取組

- アクセシビリティ専任メンバーの存在
- 全社員向けに、入社時にアクセシビリティオンボーディングを実施
- アクセシビリティを考慮したデザイン・実装コンポーネントの作成
- アクセシビリティガイドライン・チェックリストの制定と公開
- ガイドライン・チェックリストの全プロダクトでの運用
- 合理的配慮の対応方針および問い合わせ窓口の設置

参考:[アクセシビリティ | freee](#)

1 当事者・開発者の視点でみたときに、アクセシビリティ配慮として評価できる点

a. 製品が提供する価値

- ・ 健康管理にはストレスチェックなど人に知られたくないプライベートな回答が多く含まれるため、自ら操作ができることが望ましい。企業に義務付けられているストレスチェックなど健康管理報告システムに当事者も自ら入力できる試みは素晴らしい。

b. 機能面でのアクセシビリティ配慮

- ・ 回答ボタンを大きくして操作をしやすくする、スクリーンリーダに対応する等によって、視覚に頼らざるを得なかった問題が軽減されることは評価できる。
- ・ 障害のある従業員だけでなく、管理者としての立場も想定して管理者画面のアクセシビリティも確保している点が評価できる。
- ・ 自分一人で回答できるようにすることを念頭に置いて、視覚障害者、肢体不自由者、精神障害者、車いすユーザーなどの社員が実際に利用可能なものにしてある点が評価できる。

2 当事者ニーズを踏まえた開発について、優れている点

- ・ 障害のある社員の意見を反映し、また、開発・更新にも参加を得てシステムを開発している。
- ・ WCAGベースの自社アクセシビリティガイドラインを使用し、全盲当事者による検証をもとに改善をしている。

3 企業としての取組について、優れている点

- 企業全体としてアクセシビリティ対応を徹底して製品開発する姿勢を有している。
 - ✓ WCAGベースのガイドライン・チェックリストを設け、公開。
 - ✓ アクセシビリティ問題が発生しにくいパーツを開発して、それを組みわせて製品化することでアクセシビリティ問題を抑制する開発戦略をとっている。
 - ✓ 社内チェックリストの作成や、全職種の全メンバーを対象とした社員全員に対するアクセシビリティ研修を実施。
 - ✓ 問い合わせ窓口を設置して、対応事例の収集など、合理的配慮の対応のための各種の体制を整備。
 - ✓ 合理的配慮の問い合わせ窓口および様々な部署で構成された合理的配慮委員会を設けて、個別の対応について議論する場を用意。また、これにより、いわゆる特定の部署への依存状態を作らず、会社全体であらゆる段階から取り組んでいくプロジェクト的な体制の整備につながっている。

4 当事者にとって重要であるが、今後更なる配慮が期待される点(今後期待したい点)

a. 製品が提供する価値

- ストレスチェックや企業健康診断の結果をどのように回答者の障害特性を踏まえて通知しているのかが明らかになることを期待する。
- 労務担当者及び従業員にとり有効な製品と評価できるが、具体的な対応が明らかになることを期待する。

b. 機能面でのアクセシビリティ配慮

- 操作に熟練した専門家だけではなく、初心者の障害のあるユーザーなども含めたテストを期待する。
- システムの評価について、視覚障害者向けのビジネス技能訓練施設と連携することを期待する。

6. プロメトリック株式会社 試験配信ソリューションのウェブサイト

企業名	プロメトリック株式会社
機器・サービス名	試験配信ソリューションのウェブサイト(https://www.prometric-jp.com/)
問合せ先	プロメトリック株式会社 広報・マーケティング部 Email : pjp-marketing/atmark/prometric.com https://www.prometric-jp.com/contact/press/ (注)スパムメール防止のため「@」を「/atmark/」と表記しています。
機器・サービスの概要	プロメトリック株式会社は、試験配信・評価ソリューションのプロバイダーとして、コンピュータによる試験実施(CBT/IBT)および関連するソリューションを提供しています。 また、弊社ウェブサイトは、受験者・試験主催者団体向けに、当社サービスについて案内しています。
機器・サービスの特徴	1. 機器・サービスの機能 ● 受験者向け: 受験に関する案内(試験日、試験会場、受験手順など) ● 試験主催者団体向け: 試験配信・評価ソリューションサービスに関する案内 2. 情報アクセシビリティの配慮内容 ● JIS X 8341-3:2016 レベルAA 準拠、WCAG 2.2 レベルAA 適合 ● すべての人に公平公正な環境で試験を受験できる取組をウェブサイト、弊社試験会場で実施 3. その他 ● 世界180か国、8,000を超えるテストセンター(CBT)で受験可能 ● 47都道府県のテストセンターで配慮が必要な受験者に適切な対応を実施 ● 車いすでの受験、機器の持ち込み ● 試験画面の拡大、配色の変更 ● 筆談、読み上げ、代理入力および個室の提供や、IBTを利用した自宅受験など ※会場によって提供可能な合理的配慮は異なります

受験者向けのご案内



試験主催者団体向けのご案内



主催者団体様への3つの約束

私たちは試験の開発・実施・分析までを総合的に支援する試験のプロフェッショナル企業です。



確かな品質

試験実施環境の信頼性、受験者の公平性、受験の安定性を世界トップの品質を提供します。



最適な価格

お客様のニーズに合わせて、最適な価格で試験を提供します。



信頼

年間700万試験以上、累計2億試験以上の業界トップの実績が信頼の証です。

プロメトリックの試験運営サービス

プロメトリックは資格制度の設計から、試験問題の作成・管理、試験実施運営、試験結果の分析までの総合的なサービスをワンストップでご提供します。



CBT

CBT(Computer Based Testing)とは、専用会場に集合して、コンピュータを使って試験を実施する方法です。

- CBTについて
- CBT体験版



遠隔監視付きIBT

自宅やオフィスなどのインターネットとコンピュータを利用して、遠隔の監視下で受験する方法です。

- 遠隔監視付きIBTについて



試験開発支援サービス

試験の品質を高い水準で維持・向上するため、テスト理論等に基づいた科学的な試験結果分析や試験問題作成支援を行います。

- 試験開発支援サービスについて



運営サポート

予約・決済システムや主催者団体向け管理システムなど、試験運営をサポートするサービスをご用意しております。

- 運営サポートについて

当事者ニーズを 踏まえた開発

- 設計開発の段階で、アクセシビリティの専門家に懸念点を相談し、具体的な実装方法の改善を行っている。実装後も、彼らからの継続的なフィードバックを受け、必要に応じて微調整を繰り返し、製品の情報アクセシビリティを高いレベルで維持している。
- アクセシビリティのガイドラインを当社のウェブサイトに掲載し、社内・社外向けにも発信をしている。

企業としての 組織的な取組

- 全社向けに、情報アクセシビリティの理解が進むために、トレーニングの受講およびガイドラインの理解を推奨し、社員が情報アクセシビリティを考慮した設計や開発が実施できるように支援している。
- ウェブサイトのみならず、当社テストセンターでは、合理的配慮を求める受験者の方にも公平な受験の機会を提供している。例えば、事前申請により、車椅子での受験、器具の持ち込み、座席の配慮、個室の用意、読み上げ・代理入力等の配慮を受け付けている。

1 当事者・開発者の視点でみたときに、アクセシビリティ配慮として評価できる点

a. 製品が提供する価値

- CBTやIBTなど様々な試験方式に対して、利用者の障害の有無にかかわらず試験に関連した情報にアクセスでき、受験機会を得ることができるように配慮している。

b. 機能面でのアクセシビリティ配慮

- 視覚障害者をはじめとして、読みやすいWebサイトを提供することで、資格試験の受験に際して公平性を担保する取り組みを行っている。
- 試験画面の拡大縮小や配色の変更などの機能的なアクセシビリティに加え、全国の試験会場では以下のような合理的配慮を提供している。
 - ✓ 47都道府県のテストセンターに筆談等の特別対応ができる会場を用意し受験機会を提供
 - ✓ 車いすでの受験、機器の持ち込み(マウス、杖、義肢装具など)、読み上げ、代理入力および個室の提供

2 当事者ニーズを踏まえた開発について、優れている点

- 開発段階で専門家に相談し、具体的な実装の改善を行い、フィードバックを受けて継続的に改善している。
- 自社のアクセシビリティガイドラインを策定しており、最新のWebアクセシビリティにも対応しようとしている。
- 様々な当事者ニーズや会場からの意見等に合わせた改善を進めており、例えば状況に応じて、CBTをIBTで実施するといった合理的配慮を提供している。

3 企業としての取組について、優れている点

- 企業の基本方針として「すべての人に公平公正な環境で試験を受験できる取組」を掲げ、これに基づいて各種対応を実装している。
- 全社向けにトレーニングの受講やガイドラインの理解を推奨しており、アクセシビリティ指針、ガイドラインを公開している。
- アクセシビリティに関する試験結果を自社サイトにおいて公表している。

4

当事者にとって重要であるが、今後更なる配慮が期待される点(今後期待したい点)

a. 製品が提供する価値

- ・ プラットフォーム事業者として、問題作成のガイドラインを提供するといった、試験問題を作成する試験主催者に対する理解促進の働きかけを行うことを期待する。
- ・ さらに、試験問題のアクセシビリティ確保を改善するようなサービスをプラットフォーム事業者として進めることを期待する。

b. 機能面でのアクセシビリティ配慮

- ・ 試験の実施において、障害の有無にかかわらず公平性を担保する取組を期待する。
- ・ 音声読み上げだけでは対応が難しい試験形式に対して、点図や半立体的な印刷方法などの代替手段を検討する必要がある、プラットフォーム事業者としての取組を期待する。
- ・ WCAGの項目3.3(入力支援)は、申し込みサイトであれば必ず関連するが「対象外」となっているため、対応を期待する。
- ・ 英検のヒアリング問題などのように、聴覚障害者にASL(アメリカ手話言語)出題などの対応も検討されることを期待する。

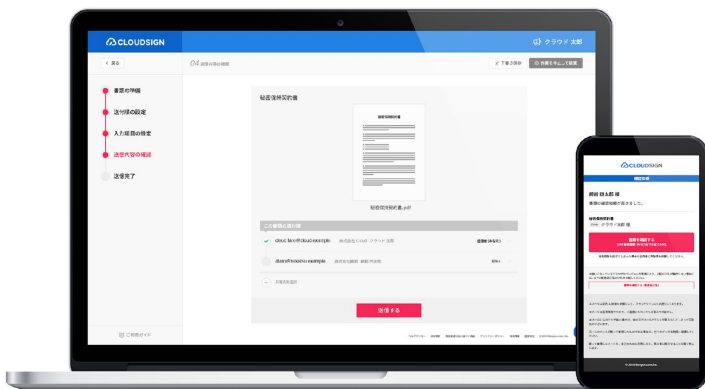
c. その他(普及のための周知広報、体制構築など)

- ・ アクセシビリティの専門家に助言を求めているが、当事者参加はまだ不十分である。当事者も関与する形でアクセシビリティを今後向上させていくことを期待する。

7. 弁護士ドットコム株式会社 クラウドサイン

弁護士ドットコム株式会社 クラウドサイン

企業名	弁護士ドットコム株式会社
機器・サービス名	クラウドサイン
問合せ先	メール: contact/atmark/cloudsign.jp (注)スパムメール防止のため「@」を「/atmark/」と表記しています。
機器・サービスの概要	クラウドサインは契約書をアップロードし、相手方が承認するだけで契約を結ぶことが出来るクラウド型の電子契約サービスです。
機器・サービスの 特徴	1. 機器・サービスの機能 ● 書類内容確認機能: 契約当事者は、契約相手によってクラウドサイン上にアップロードされた契約書PDFの書類確認依頼をメールにて受信後、書類の内容を確認できます。 ● 入力項目入力機能: 書類に入力項目が指定されている場合に、チェックやフリーテキスト入力で入力できます。 ● 合意締結機能: クラウドサイン上で同意ボタンを押すことで、電子署名で電子契約を締結できます。 2. 情報アクセシビリティの配慮内容 これまで単独での紙面での契約締結や押印が困難だった視覚障害者や身体障害者自身が単独で書類内容を確認し、同一の書類に対して署名を行うことができます。 ● スクリーンリーダー対応: ボタンやリンク・入力欄など各項目を認識できます。 ● キーボード操作対応: 腕などの障害や怪我により標準的なマウスを使えない方でも操作できます。 ● 視認性考慮: 色弱者でも文字を認識しやすいユーザーインターフェースです。

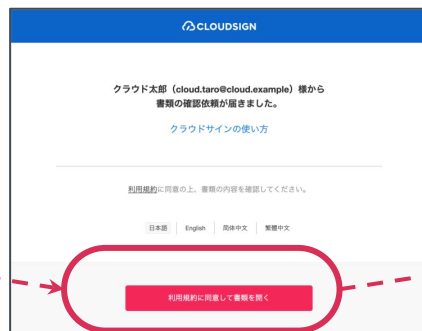


受信者

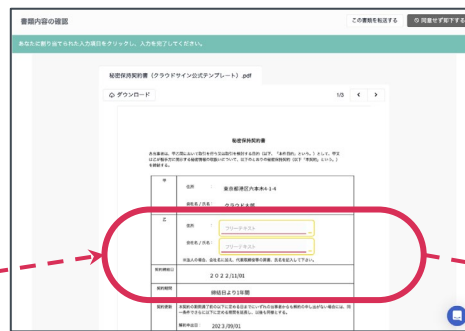
即座に契約書を確認し、速やかな合意締結作業が可能



1. 受信メールからアクセス



2. 書類の確認開始



3. 入力項目を入力



4. 内容を確認して同意

弁護士ドットコム株式会社 クラウドサイン

当事者ニーズを 踏まえた開発

- 企画・設計開発の段階で、懸念点をいつでも相談できるようアクセシビリティ専門家への窓口を整備し、具体的な実装方法について提言をもらうことができるようにしている。
- 外部から障害当事者を招いてユーザビリティテストを実施し、その結果を踏まえ、社内でもスクリーンリーダーでの動作テストを実施するなど、障害当事者や利用者等の意見を踏まえた改善を行っている。

企業としての 組織的な取組

- 情報アクセシビリティを確保できるようなデザインシステムを採用し、それに基づいた実装コンポーネントを整備している。
- 毎月2回クラウドサインの全プロダクト開発者向けに達成基準の解説および改善事例を解説することで、ウェブアクセシビリティの向上に取り組むよう啓蒙している。
- 全盲の障害当事者であるアクセシビリティスペシャリストを招きユーザーテストを実施し、社内外にオンラインおよびオフラインで動画とテキストで発信し、ウェブアクセシビリティを学べる機会を提供している。
- 情報アクセシビリティの確保を目的としたチェックを行う全社横断の専門家を配置し、各部門と連携しながら、製品やサービスがアクセシビリティ基準を満たしているかを確認し、全社的にアクセシビリティの向上に努めている。

1 当事者・開発者の視点でみたときに、アクセシビリティ配慮として評価できる点

a. 製品が提供する価値

- ・ 契約書という心理的にも難しさを感じるであろう書類の場面で、アクセシビリティの確保を目指している。
- ・ 視覚障害、肢体の障害のある利用者が契約書の閲覧、署名が可能となるようなシステムを目指している点が評価できる。これらの契約内容の確認や、署名などが自分でできるようになることはプライバシーやセキュリティ面から当事者のニーズに適っている。
- ・ 契約の場面で家族以外の同伴者の代筆代読支援が受けられにくい視覚障害者にとって、期待できるものと考えられる。

b. 機能面でのアクセシビリティ配慮

- ・ マウス操作に困難のある障害者へのアクセシビリティ配慮を想定したことも評価できる。

2 当事者ニーズを踏まえた開発について、優れている点

- ・ 全盲のアクセシビリティスペシャリストによるユーザビリティテストを行い、製品開発にそれらのノウハウを活かしている。
- ・ 相談窓口の整備や、外部からの障害者への実証実験等を踏まえた改善を行い開発している。
- ・ アクセシビリティ対応を実装する開発者からの懸念点を相談する仕組みを設けている。

3 企業としての取組について、優れている点

- ・ 全社を挙げてアクセシビリティ研修を実施している等、企業姿勢として積極的である。
- ・ 開発だけでなくユーザビリティテストや全社員対象のイベント等の取組によって契約に関するアクセシビリティへの関心を高く喚起させようと取り組んでいる。
- ・ 全社横断で専門家を配置し、各部門と連携しながら開発を進めている。
- ・ アクセシビリティに配慮したデザインシステムを構築し、開発の品質向上や二度手間を防ぐなどの努力をしている。

4 当事者にとって重要であるが、今後更なる配慮が期待される点(今後期待したい点)

a. 製品が提供する価値

- ・ —

b. 機能面でのアクセシビリティ配慮

- ・ 現在は、契約のしくみや内容を理解できる障害者をターゲットにしており、契約そのものにアクセスできるようにすることへの問題意識が高まることを期待する。
- ・ 顧客企業が作成する契約文書に潜むアクセシビリティ問題について、プラットフォーム事業者として指導を期待する。
- ・ 契約文書としてアップロードされるPDFのアクセシビリティが十分に確保されていない点が課題であり、サービス提供企業として、アクセシビリティ確保のための機能や、アクセシビリティ向上のためのガイドライン提供や働きかけを期待する。

c. その他(普及のための周知広報、体制構築など)

- ・ サービスを利用できる契約方法や機関を増やすことが求められており、特に金融機関や住宅購入などの分野での活用を期待する。

8. 株式会社リモートアシスト 視覚障害者Android端末「エルビーフォン」



あなたの生活を 豊かにする スマートフォン

LBエルビーフォン
For Low vision & Blind



こんなカスタマイズが可能です

- 画面読み上げ機能(TalkBack)
- 見え方に合わせた画面拡大や色反転
- 文字が大きく入力しやすい検索画面
- あなたにお勧めのアプリをインストール

エルビーフォンは、目が見えにくい方が使いやすいようにさまざまな工夫がなされています。お手持ちのスマートフォンからSIMカードを差し替えるだけなので、電話番号や料金が変わりません。専門の相談員が、お客様の視力やニーズを伺い、それに応じたカスタマイズを行います。そのため、一般の携帯ショップや量販店では購入できない商品です。

エルビーフォンの開発は、先天性の視覚障害があり当事者目線でスマートフォンの指導を10年以上に渡って行ってきた専門スタッフである、岸本将志(きしもとまさし)が完全監修し、設定内容を決めるヒアリングから使用方法のサポートを提供します。

新しいアプリのインストールや設定の変更については、遠隔操作(有償サポート)で対応しています。

使い方については、このページの右にあるQRコードから動画を視聴できます。



企業名	株式会社リモートアシスト
機器・サービス名	視覚障害者Android端末「エルビーフォン」
問合せ先	株式会社リモートアシスト info/atmark/remote-assist.jp (注)スパムメール防止のため「@」を「/atmark/」と表記しています。
機器・サービスの概要	エルビーフォンは、当事者の視力や見え方、使い方に合わせて画面やアプリをカスタマイズしたスマートフォンです。いわばオーダーメイドのスマホです。このカスタマイズは先天性の視覚障害を持ちながら10年超に渡りパソコンやスマホ講習の講師を務めてきた岸本将志さんの企画監修によるものです。 エルビーフォンを設定するにあたってはお一人ずつヒアリングを行い、その方の視力やご利用目的、スマートフォン利用歴などから、最適と思われる設定や調整、ご要望のアプリなどインストールします。またご利用開始後においても使いこなしのサポートや、遠隔操作による設定変更、新たなアプリのインストール(有償)などを行います。
機器・サービスの特徴	1. 機器・サービスの機能 エルビーフォンは、全盲や弱視の利用者向けに音声読み上げ機能や画面拡大機能を調整。音声読み上げと画面拡大を組み合わせるため、視覚に応じた柔軟な利用が可能です。また、操作方法やフォントサイズ、配色の調整ができ、基本アプリの使いやすさも向上します。 2. 情報アクセシビリティの配慮内容 文字情報の音声読み上げ、画面拡大、色調整、アニメーション抑止機能を搭載。また視力低下時には遠隔援護サービスも利用可能です。 3. フロッグワークス社(セッティングの監修)によるカスタマイズ設定と電話サポート体制

当事者ニーズを踏まえた開発

- 企画・設計開発の段階で、視覚障害当事者かつ視覚障害者のICT利活用に関する専門家(視覚障害者向けのICT講習・視覚障害者団体向けウェブサイトの制作に長年従事している)の助言を得て、音声読み上げ機能の設定・画面表示の拡大機能の設定等、出荷時に行うべきアクセシビリティ設定の仕様(エルビーフォン標準仕様)の策定を行った。
- 上記により策定された仕様をもとにエルビーフォンのデモ機を準備し、直近1年間で視覚障害者向けの体験会を3回(参加者実数14名)、オンライン説明会を2回(参加者実数20名)、個別にモニターという形5名の方に実機を体験していただいた。
上記対象者の内訳は、全盲の方が約6割、弱視・ロービジョンの方が約4割であった。弱視・ロービジョンの方の見え方(障害の程度)は様々であった。
それぞれの場で、a)操作方法の分かりやすさ、b)使い勝手の良さ、c)今後さらに必要と思われる機能の3点について意見収集し、エルビーフォン仕様に反映させた。なお、上記の対象者以外の使用者から得られた感想やトラブル事例から読み取れる改善点についても分析し、随時仕様に反映させている。

企業としての組織的な取組

- 前職での経験: 経営者は前職のメーカーで、AVC商品のマーケティングやユニバーサルデザイン(UD)ものづくりを担当し、視覚障害者向けの製品改善に取り組んできました。
- 会社設立と遠隔援護サービス: その経験を活かし、ウェアラブルカメラを利用した視覚障害者の遠隔援護サービスを事業化。経営者自身も「同行援護従事者」の資格を取得し、一般社団法人日本視覚障害者遠隔援護協会を設立しました。
- サービスの拡大: 全盲者対象のサービスから、弱視者や難聴との複合障害者へのサービス拡大を目指し、「点字チャット」や生成AIを活用したテレビ放送の要約・点字変換を開発。盲ろう者がリアルタイムでテレビの世界に触れられるようにすることを目指しています。

1 当事者・開発者の視点でみたときに、アクセシビリティ配慮として評価できる点

a. 製品が提供する価値

- ・ 視覚障害者がスマホ利用にあたって生じる物理的、心理的ニーズに着目し、スマホ端末やアプリへのアクセシビリティをリモートでサポートすることで、視覚障害者だけでなく高齢者や初心者向けに機器利用のハードルを下げている。

b. 機能面でのアクセシビリティ配慮

- ・ Androidのアクセシビリティ機能をカスタマイズすることで、開発費を抑え低コスト化している。
- ・ 個別の聞き取りに基づき、利用者個々にアクセシビリティ機能をカスタマイズすることで、個人に合わせた最大の使いやすさを提供している。

2 当事者ニーズを踏まえた開発について、優れている点

- ・ 障害当事者が研修の講師としての経験を踏まえて、開発に活かしている。
- ・ 20名の障害当事者のユーザテストにより、さらなる機器の使い勝手を向上させている。
- ・ フロックワークス社がセッティングを監修しており、サポートも行っている。
- ・ デモ機による体験会、オンライン説明会を1年間に数回実施し、操作方法、使い勝手などを確認し反映している。

3 企業としての取組について、優れている点

- ・ 多くの視覚障害者団体と連携したり、展示会に出展するなど、外部へのアピールに務めている。
- ・ 多くの企業が目を向けない盲ろう者のアクセシビリティの確保についても将来的な構想を抱いている。

4

当事者にとって重要であるが、**今後更なる配慮が期待される点**(今後期待したい点)

a. 製品が提供する価値

- ・ サポートによる視覚障害者のスマートフォン利用意欲がどの程度向上しているのかが明らかになることを期待する。

b. 機能面でのアクセシビリティ配慮

- ・ 一度習得したジェスチャーが独自形態であると、他の製品を使用するには乗り換えにあたっての練習が必要であるため、長期的視点では利用者が不便にならないかという点は気がかりである。
- ・ 音情報を可視化する機能があれば、聴覚障害者にも便利になる可能性があり、今後対応を期待する。

c. その他(普及のための周知広報、体制構築など)

- ・ 購入前ヒアリングは丁寧な対応であるが、時間やコストがかかる。研修、事例共有を推進して専門スタッフのスキルを向上させることで、より使い勝手のよい方法を期待する。
- ・ 盲ろう者にも対応できるサポート体制が構築されることを期待する。
- ・ ICTサポートセンターや点字図書館と連携することで、製品の認知度向上やサポート人材の育成を期待する。

9. Dynabook株式会社 アクセシビリティ向上ソフトウェア「せっていのとびら」

企業名	Dynabook株式会社
機器・サービス名	アクセシビリティ向上ソフトウェア「せっていのとびら」
問合せ先	Dynabook株式会社 国内PC事業本部 公共・文教営業部 TEL:03-5144-3110 お問い合わせページ: https://dynabook.com/business/contact.html
機器・サービスの概要	Dynabookが目指した誰一人取り残さない教育環境 教育の現場では児童・生徒の、一人ひとりの特性に合わせた設定変更が可能な「せっていのとびら」
機器・サービスの特徴	1. 機器・サービスの機能 ● 「せっていのとびら」はdynabook のパソコンをお客様がより快適にご利用いただけるよう支援するソフトウェアです。Windows に搭載されているアクセシビリティ設定機能へ、かんたんにアクセスすることができます。 2. 情報アクセシビリティの配慮内容 ● 「せっていのとびら」は、障がいがある方々が自身の状況や程度に応じて使いやすいように設計されています。例えば、文字の大きさやコントラストの調整、音声読み上げ機能などです。 ● ご使用者様自身のニーズに合わせた設定を簡単に行うことができ、よりアクセシブルに学ぶことができます。 ● ご利用方法を解説する説明書とYouTube動画をご提供しています。 学校現場で先生方が説明に使用できる資料、また、児童・生徒が自分で理解、操作にチャレンジできる動画です。下記URLをご参照ください。 https://dynabook.com/solution/dynaschool/gigaschool/windows-solution/accessibility.html

「せっていのとびら」のアクセシビリティ機能

GIGA スクール構想では、パソコンの利用に不便を感じている子供もいます。

たとえば、色の違いを認識しづらい子供、小さな文字が見えにくい子供、

音声サポートが必要な子供など、それぞれが異なる学びのサポートが必要です。



「せっていのとびら」は、色覚特性に対応するカラーフィルターの設定や、文字の大きさの変更、画面の明るさ調整、読みあげ機能などを、直感的なインターフェースで簡単に操作できるように設計されています。

これらの設定はもとも Windows の設定メニューから調整できます。しかし、この操作が複雑でわかりにくいと感じる子供も少なくはありません。

「せっていのとびら」を利用すれば、この機能にかんたんにアクセスでき、子供たちが自分で自分に合った設定に変更することができます。

■YouTube動画ご紹介

①アクセシビリティ向上ソフトウェア「せっていのとびら」



https://www.youtube.com/watch?v=kBoai_dkVC8

②GIGAスクール導入事例「島根県益田市教育委員会様」



https://www.youtube.com/watch?v=MPNd_XJDoSk

※YouTubeで動画を視聴する際、字幕機能を[ON]にすると、内容を理解しやすくなるかと思います。日本語以外の言語にも対応しています。ぜひお試しください。

当事者ニーズを 踏まえた開発

2015年12月から2017年3月にかけて、総務省主導で東京学芸大学と連携し、過疎化が進む中山間地域である島根県益田市において、教育ICTの導入モデル構築の実証研究を行いました。この研究では、「学校」「地域(公営塾)」「家庭」の学習環境を整え、いつでもどこでも学べる環境を実証しました。その後も益田市と協働研究を続け、全国に先駆けて1人1台端末の実証研究を進めてまいりました。

2023年に益田市立鎌手小学校での授業参観に同席した際、岡本教諭から「色の判別が難しい児童がいる」と相談を受けました。Windows 11のアクセシビリティ機能を活用し、色弱の児童にも対応できる学習環境を整えるため、PCメーカーとして取り組みを開始しました。日本マイクロソフト(株)と連携し、岡本教諭のアドバイスも受けながら、「せっていのとびら」アプリを開発し、健常者や色覚弱者、聴覚弱者など誰でも使えるようにデザインを工夫しました。例えば、「字幕」は「字まく」と表記し、低学年でも理解しやすいように工夫されています。

このアプリは、視覚と聴覚にハンディキャップのある児童だけでなく、いじめに繋がらないように文字の大きさなど、他の機能も変更できるように設計されています。これにより、すべての児童が平等に学びを楽しむことができる環境を目指しています。

企業としての 組織的な取組

「コンピューティングとサービスを通じて世界を変える」

(dynabook as a Computing × dynabook as a Service)

当社は、2019年に社名変更と共に、新しいビジョン「コンピューティングとサービスを通じて世界を変える」を制定しました。具体的には、“ハードウェア(dynabook as a Computing)とサービス(dynabook as a Service)の融合”と、それを支えるテクノロジーの強化、事業のグローバル展開を新方針として、「人に寄り添う、社会を支える、真のコンピューティング」と「ユーザーを起点に考えた新しい付加価値・サービス」を追求してまいります。これらを通じて、より快適な社会と生活の提案を行うことを、私達の次なる挑戦として取り組んでまいります。

1 当事者・開発者の視点でみたときに、アクセシビリティ配慮として評価できる点

a. 製品が提供する価値

- ・ 当事者意識の無い困難さを抱えた人にも自然にその便利さに気づかせるような仕組みを考えており、すべての人を包括した開発となっている。
- ・ Windowsのアクセシビリティ設定の「階層が深く、探しにくい」という課題を解決しようと努力した製品である。
- ・ 学童期からアクセシビリティ機能の有用性に気づくことにつながる。1人だけ特別ではなく、全員が自分に合わせて設定できるという点などが評価できる。すべての人がアクセシビリティという考えに触れる扉を開いている。
- ・ GIGAスクール構想をさらに学校現場に定着・浸透させていく可能性を押し広げる、前例のない取組モデルを提供している。デジタル教科書との連動についても課題はあるが、希望を抱かせてくれる取組である。

b. 機能面でのアクセシビリティ配慮

- ・ 複雑な階層となっていて分かりにくいアクセシビリティ設定について、簡単に操作できることで年齢層に関係なく使いやすいPC環境を得られる。
- ・ 設定画面が直感的にわかりやすく文字やアイコンも大きく誰でも操作しやすい。

2 当事者ニーズを踏まえた開発について、優れている点

- ・ 自ら学校に赴いて子ども目線で現場調査を行ったり、学校教員へのインタビューによって子どもたちの潜在的なニーズを掘り起こしたりし、それらをすぐに実現させようと開発に取り組んでいる。

3 企業としての取組について、優れている点

- OSのアクセシビリティ機能を開発しているマイクロソフトと連携している。また、医療型障害モデルを超えて、社会モデルで障害をとらえ先進的な意識で取組を行っている。
- 全社挙げて、開発する製品をすべての人が使えるようにと意識した取組がなされている。

4 当事者にとって重要であるが、今後更なる配慮が期待される点(今後期待したい点)

a. 製品が提供する価値

- 現在はDynabook製品に限定されているが、他の製品や幅広いユーザー(高齢者やPC初心者など)にも利用できるようにすることを期待する。
- 子どもたちの成長や使い方の変化に応じて、設定を変更するよう促す機能を期待する。
- より良くするため、子どもたち(当事者)からのフィードバックを取り入れることを期待する。

b. 機能面でのアクセシビリティ配慮

- 文部科学省が求める基本的なアクセシビリティ要件に対応しているが、色覚異常、読字障害などへの対応を期待する。
- 聞こえない人にとっては、音声による操作や通知があること自体、気づくことができない。一部利用できない機能や情報があるとのことだが、聞こえない人にとっては大きな問題となるので、改善を期待する。
- 動画の字幕はYouTube自動字幕はあるとのことだが、誤変換が予想されるので、より正確な字幕表出を期待する。
- 手話を使う、あるいは日本語を学んでいる最中の子どもたち(聴覚障害のある子どもだけでなく外国人児童も含む)もアクセスできるよう、見る、聞くだけでなく、言語面でのアクセシビリティも期待する。

4

当事者にとって重要であるが、**今後更なる配慮が期待される点**(今後期待したい点)

(続き)

c. その他(普及のための周知広報、体制構築など)

- 多くの児童・生徒・教員に知っていただき。その上で、どの程度このソフトウェアが利用されているのか、量的・質的な評価を行い、それを基にした普及を期待する。
- PC初心者にも有用なものと考えられるため、PC訓練を行なっている機関との連携も期待する。
- すべての音情報を可視化する難しさはあるかもしれないが、当事者(1人ではなく複数人)の意見を聞き、共に協働しながら開発できる事を期待する。

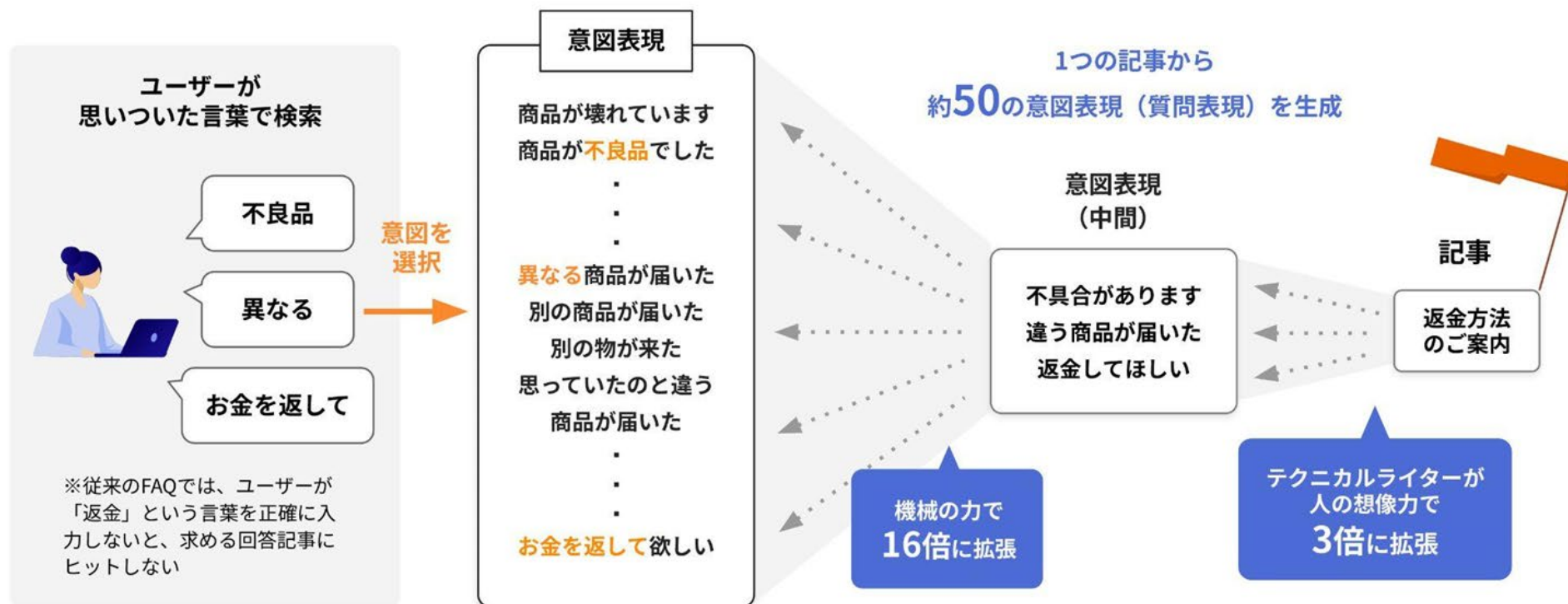
10. 株式会社Helpfeel Helpfeel

(株)Helpfeel Helpfeel

企業名	株式会社Helpfeel
機器・サービス名	Helpfeel
問合せ先	マーケティング部 広報グループ pr/atmark/helpfeel.com (注)スパムメール防止のため「@」を「/atmark/」と表記しています。
機器・サービスの概要	クラウドで提供する検索性に優れたFAQシステムです。商品やサービスの利用方法や業務手順などで疑問をもったユーザーが自分自身で疑問を解決することができます。それにより、ユーザーの利便性向上や、企業などの問い合わせ対応の負荷軽減を実現します。
機器・サービスの特徴	1. 機器・サービスの機能 - 検索ワードの表記ゆれ、スペルミス、入力途中の単語に対しても質問者の意図を予測して適した質問文を提示し、回答に導きます。 - 検索ワードのログ分析が可能で、ユーザーが頻繁に検索するワードを把握し、それをもとにFAQの回答ページを増やすなど、継続的な利便性の改善が可能です。 - 質問文の作成などに生成AIを活用していますが、公開する情報を人が確認できる仕組みになっており、誤情報(ハルシネーション)の発生を防ぐことが可能です。 2. 情報アクセシビリティの配慮内容 - 意図予測検索 正確な検索ワードを入力する必要がなく、表記ゆれ、スペルミス、入力途中の単語に対しても、適切な候補を提示する検索システムを提供しています。 - 問い合わせフォーム機能 入力内容に基づいて、関連するFAQを提案するフォームを提供しています。問い合わせを送信する前に、ユーザーを自己解決へ導きます。 - テクニカルライティング 読み手の負荷が小さい記事を提供しています。また用語について知りたいユーザー向けに、解説記事への導線を自然な形で置く方法を提供しています。 - 操作困難者への対応 キーボードだけの環境で検索しやすい工夫、タッチの誤操作などにより意図せずページを閉じてしまわない工夫、音声入力に対応を行っています。

(株)Helpfeel Helpfeel

ユーザーが入力する言葉は、抽象的な表現や口語的な言い回し、スペルミスであることも多いものです。「意図予測検索」では、ユーザーが入力した曖昧な言葉から質問(意図表現)を予測し、求める回答を表示します。1つひとつのFAQ記事に対して、テクニカルライターとAI技術によってユーザーが入力するであろう単語を予測し、約50の「意図表現」を作成しています。



(株)Helpfeel Helpfeel

当事者ニーズを踏まえた開発

- 顧客企業からの要望によって、困りごとやニーズを把握しています。また、社内で自社サービスを日常的に使用することで、主に「一時的または状況的な障害のある状態」での困りごとやニーズも把握しています。
- アクセシビリティ改善をサービスに反映させるうえで、既存ユーザーの使い心地やデザインになるべく影響を与えない方法を模索しています。
<https://www.docswell.com/s/hata6502/ZWWWVY-2024-09-04-170137>
- ニーズの把握およびアクセシビリティ改善活動を、デジタルアクセシビリティアドバイザー Basicレベルの社内メンバーとともにを行っています。

企業としての組織的な取組

- デジタル庁のウェブアクセシビリティ導入ガイドブックを基に勉強会を実施し、プロダクトを実際に操作しながら、問題点がないかをチェックしました。
<https://corp.helpfeel.com/post/adventcalendar2023-day12>
- アクセシビリティを予め考慮した自社デザインシステム「irori」を開発し、管理画面に導入しました。
<https://www.docswell.com/s/kuon/K4QP1N-2024-03-05-124238>
- 社内アクセシビリティ相談会「a11yオフィスアワー」を2週間おきに開催しています。また、実際にプロダクトを改善していく「アクセシビリティ改善活動」を1週間おきに開催しています。

1 当事者・開発者の視点でみたときに、アクセシビリティ配慮として評価できる点

a. 製品が提供する価値

- ・ 当事者に直接アクセシビリティを提供するものではないが、多くの企業のアクセシビリティを支援することによって多くの当事者のメリットにつながっている。
- ・ 当事者が知りたい情報を、間に入ってより理解しやすくできるようにすることは、たいへん有用である。
- ・ FAQを充実させることで、利用者、事業者の双方の負担を軽減することができる。

b. 機能面でのアクセシビリティ配慮

- ・ 操作困難者への対応など、丁寧にFAQシステムを改善している。

2 当事者ニーズを踏まえた開発について、優れている点

- ・ 視覚等だけでなく、操作困難者等にも対応している。
- ・ 社内に障害当事者の社員を抱えるわけではないが、顧客企業から困りごとやニーズを間接的に把握している。

3 企業としての取組について、優れている点

- ・ アクセシビリティオフィスアワーといった、アクセシビリティ改善活動を社内で定期的に運用している点
- ・ Webガイドラインの準拠に加え、デジタルアクセシビリティアドバイザー認定試験の取得等、アクセシビリティを向上させるために社員育成に取り組んでいる。
- ・ デジタル庁ウェブアクセシビリティ導入ガイドブックを基に勉強会を実施しており、プロダクトに問題なさそうかをチェックしている。

4 当事者にとって重要であるが、今後更なる配慮が期待される点(今後期待したい点)

a. 製品が提供する価値

- ・ 障害当事者による検証を行い、サービスの改善に役立てることを期待する。
- ・ FAQを利用できない視覚障害者もいるため、コンテンツを提供する企業に対しては、お問合せフォームに加え、電話やメールなどの問い合わせ手段の併用の必要性も説明されることを期待する。

b. 機能面でのアクセシビリティ配慮

- ・ 本製品はWCAG2.0のA、AA準拠を目標としているが、現状ではAに一部準拠しているのみであり、代替テキストの不足など、今後の更なる対応を期待する。

c. その他(普及のための周知広報、体制構築など)

- ・ 多くの企業のアクセシビリティに関する意識をどのように高めるかがこのサービス普及の鍵となるため、アクセシビリティに関する意識を高めるための対応策の検討を期待する。

11. KDDI株式会社 au Ponta ポータル

KDDI(株) au Pontaポータル

企業名	KDDI株式会社
機器・サービス名	au Ponta ポータル
問合せ先	ウェブアクセシビリティ推進事務局 web-accessibility/atmark/kddi.com, 070-2208-9732 (注)スパムメール防止のため「@」を「/atmark/」と表記しています。
機器・サービスの概要	au Ponta ポータルは、Pontaパスやau PAY、au PAYカードなどの各種サービスの利用に応じたため、つかうことができるPontaポイントに関する情報をご案内するWebサイトです。KDDIが提供するサービス・アプリから共通的にアクセスできるようになっており、統一的なユーザー体験と直感的なポイント情報の理解を可能にしています。
機器・サービスの特徴	1. 機器・サービスの機能 障がい者や高齢者を含む幅広い層の利用者が、ポイントの保有数や付与・利用の履歴を確認するだけでなく、ポイントをためる・つかう方法の提案など、多様なシチュエーションに応じた情報に、容易にアクセスできることを追求し設計しています。これにより、利用者はポイントに関する知見を深め、自立的かつ効率的にポイントに関するサポートを受けられるようになっています。 2. 情報アクセシビリティの配慮内容 ● 複数のスクリーンリーダーでの音声読み上げに対応したHTML構造を実装しています。これにより、視覚的なインターフェースに依存せずに情報にアクセスできるよう配慮しています。 ● キーボード操作でのアクセスを容易にするため、シンプルなナビゲーションを採用し、直感的に操作できるデザインを追求しています。 ● 色のコントラストを強化し、フォントサイズやタイプを調整しています。さらに、文字サイズを拡大した場合でも適切にリフローできる対応を行い、視認性を確保しています。

au Ponta ポータル

URL <https://www.point-portal.auone.jp/>

主な機能

- 保有ポイントの確認
- ポイントの付与・利用履歴
- ポイントのつかい方、ため方情報の提供
- キャンペーン情報の提供
- 毎月もらえるギフト

KDDI(株) au Pontaポータル

当事者ニーズを 踏まえた開発

- 企画・設計では、専門化によるレビューやユーザテストの実施により、サービス設計上の具体的な課題の把握や実装方法の改善を行い、アクセシビリティの向上を図っています。例えば、スクリーンリーダーでの読み上げ順に課題があることが分かり、今後サービス設計時に考慮する対策を検討しています。
- 市場にリリースされた後には、カスタマーサポートと連携してユーザフィードバックを収集する仕組みを構築しており、今後の継続的な改善や、開発や施策において役立てることを目指しています。
- また、本サービスの利用に限らず、WCAGの適合調査からだけでは把握できない当事者の各種デジタルサービス利用における課題把握のため、障害者雇用しているグループ会社との連携により、視覚障害当事者へのユーザー調査を実施しており、今後のサービス設計に反映させる予定です。具体的に把握できた課題としては、テキストの拡大時において横スクロールが必要になるなど操作の手間を感じる、また白背景が眩しく感じられるなどがあります。

企業としての 組織的な取組

- KDDIグループはグループ人権方針に掲げる「誰もが使いやすいサービス・商品の実現」を目指し、経営における重要な人権課題として、またサステナビリティ経営の一環として、ウェブアクセシビリティへの取組を推進しています。
- 2024年3月に「KDDIグループウェブアクセシビリティ方針」を公開するとともに、ウェブアクセシビリティ事務局を設置し推進体制を構築。WCAG2.2 AA基準の達成を目指し、段階的な目標を設定、ウェブサイトやアプリの計画を策定するとともに、ガイドラインの開発や社内教育の整備も進めています。
- ガイドラインの開発：KDDIグループのウェブサイト・アプリへの実装に向け、基準達成のプロセスや運用方法を独自のガイドラインとして策定、このガイドラインは、他企業にも参考にしてもらえるよう一般公開を目指しています。
- 社内教育：トップ・ミドルマネジメントから現場の企画・開発担当社員まで、役割に応じた基本知識やスキル育成のための教材を作成、会議体や勉強会、Eラーニングを通じて浸透を図っています。具体的には「アクセシビリティの重要性の理解」「WCAG2.2項目の理解」「コンテンツ作成の方法」などで、一部は全社員必修のEラーニングとして展開しています。

1 当事者・開発者の視点でみたときに、アクセシビリティ配慮として評価できる点

a. 製品が提供する価値

- Pontaポイントのような一般的で多くの人が利用するサービスに当事者の人がストレスなくアクセスできるのは素晴らしい。
- ポイントに関するサイトがアクセシブルなものになることにより、視覚障害者もポイントを活用して日常的に買い物等の場面で効率よく利用できると考える。

b. 機能面でのアクセシビリティ配慮

- 当事者のニーズや利用状況を踏まえた開発、課題の把握、評価等のプロセスをとっており、現在も問い合わせに応じて改良を進めている。
- WCAG 2.2 AAへの対応を進めている点は高く評価できる。

2 当事者ニーズを踏まえた開発について、優れている点

- 企画設計において、ユーザテストや専門家による評価を実施してきている。
- 徹底したユーザテストを行い、スクリーンリーダー対応などもしている。
- リリース後は、ユーザーフィードバックをカスタマーサポートを通じて入手後すぐ改善や開発・施策に反映させている。
- グループ内の障害者雇用企業(特例子会社)と連携して、ニーズを開発にフィードバックしている。
- 音声読み上げへの対応だけでなく、弱視者(ロービジョン)の多様なニーズも踏まえたアクセシビリティの向上を目指している。

3 企業としての取組について、優れている点

- KDDIグループとしてアクセシビリティ方針を作成し、公開(2024年3月)している。今回の応募サービスに留まらず、社内すべてのサイトにも同じように取り組む姿勢をとっている。
- 社内教育として、役職/職種に合わせた教育コンテンツを提供しており、WCAGに関しては一部社員は必須受講としている。社員研修などを充実させることで、継続的に社内への浸透を図っている。

4 当事者にとって重要であるが、今後更なる配慮が期待される点(今後期待したい点)

a. 製品が提供する価値

b. 機能面でのアクセシビリティ配慮

- アクセシビリティの向上に向けた取組を継続し、視覚障害者を含む多様なユーザーのニーズに配慮することを期待する。
- 説明動画の字幕充実や、手話対応も期待する。
- アプリの更新においても、確保されていたアクセシビリティが損なわれることのないよう意識して取り組まれることを期待する。
- お問い合わせサイトが見つけにくいと感じることから、検索のし易さを期待する。

c. その他(普及のための周知広報、体制構築など)

- アクセシビリティ向上の取組を一般の人々にも広く知らせることで、社会全体の理解が深まることに期待する。
- どのような障害者のニーズを基に改良が行われたのか、そのプロセスが明らかになることを期待する。

12. KDDI株式会社 auビジュアルガイド

KDDI(株) auビジュアルガイド

企業名	KDDI株式会社
機器・サービス名	auビジュアルガイド
問合せ先	smartglass/atmark/kddi.com (注)スパムメール防止のため「@」を「/atmark/」と表記しています。 KDDI株式会社 先端技術研究本部 応用技術研究2部 次世代体験技術グループ 白石 里咲
機器・サービスの概要	オーディオガイドと同様なシーンで活用できる、スマートグラスを用いた映像による解説サービスです。多言語の字幕・音声ならびに手話を用いた作品解説や、仮想空間を活用したARならではの鑑賞体験も実現できます。
機器・サービスの特徴	1. 機器・サービスの機能 ● 「auビジュアルガイド」は、展示会や美術館、博物館といった展示品を鑑賞する場面で、従来広く用いられていたオーディオガイドの視覚化を実現しました。オーディオだけでなく、関連作品の表示やパーソナルガイドの表示を通じて視覚に訴えることで、より直感的な芸術鑑賞を可能にしています。見ることを通じて理解を深める体験は、これまでオーディオガイドを使うことが難しかった、聴覚障がいをお持ちの方にも大きな価値を提供し、聴覚障がい者の美術館や博物館へのアクセスを支援します。 2. 情報アクセシビリティの配慮内容 ● 「auビジュアルガイド」は、特に聴覚に障がいをお持ちの方に視覚効果で置き換えるガイドサービスを提供しているが、操作方法をわかりやすくするため、タップするボタンを大きく配置し押しやすくしています。 ● また、スマートフォンのタップという多くの方になじみのある動作であることも使いやすさの向上に寄与しています。

KDDI(株) auビジュアルガイド

使い方はとても簡単。スマートグラスをかければ、スマートフォン画面はシンプルな操作だけ。

1



作品の前に立ちます。

2



スマートグラスを装着します。

3



スマートフォン画面で番号を入力します。

4



スマートグラス上に、映像解説やARコンテンツなどのビジュアルガイドが表示されます。

KDDI(株) auビジュアルガイド

当事者ニーズを 踏まえた開発

- 企画の段階で、ろうあ連盟に相談し、聴覚障がいをお持ちの方に役立つサービスとなっているか確認しながら開発を進めた。特に手話を用いたコンテンツについては、撮影の協力も仰ぎ、わかりやすさにこだわって製作している。実装後も、フィードバック次第で簡単に内容の変更（動画の差し替え）が可能であり、さまざまな場面に対応できる。
- ろうあ連盟にご協力いただき、聴覚障がい者に実際にサービスを利用してもらい、問題なく利用できるかはもちろん、auビジュアルガイドの利用によってどのように美術鑑賞が変化したかのアンケートをとっている。スマートグラスをかけてスマホをタップするだけなので簡単、かつ手話やパーソナルガイドが表示されることで新しい鑑賞体験ができたという好意的な声がある一方、スマートグラスとスマホを有線接続することが煩わしいといった指摘は改善につとめつつあり、より使いやすいものになるよう努めている。

企業としての 組織的な取組

- KDDIグループはグループ人権方針に掲げる「誰もが使いやすいサービス・商品の実現」を目指し、経営における重要な人権課題として、またサステナビリティ経営の一環として、ウェブアクセシビリティへの取組を推進している。
- 2024年3月に「KDDIグループウェブアクセシビリティ方針」を公開するとともに、ウェブアクセシビリティ事務局を設置し推進体制を構築。WCAG2.2 AA基準の達成を目指し、段階的な目標を設定、ウェブサイトやアプリの計画を策定するとともに、ガイドラインの開発や社内教育の整備も進めている。
- ガイドラインの開発：KDDIグループのウェブサイト・アプリへの実装に向け、基準達成のプロセスや運用方法を独自のガイドラインとして策定。このガイドラインは、他企業にも参考にしてもらえるよう一般公開を目指している。
- 社内教育：トップ・ミドルマネジメントから現場の企画・開発担当社員まで、役割に応じた基本知識やスキル育成のための教材を作成。会議体や勉強会、Eラーニングを通じて浸透を図っている。具体的には「アクセシビリティの重要性の理解」「WCAG2.2項目の理解」「コンテンツ作成の方法」などで、一部は全社員必修のEラーニングとして展開している。

1 当事者・開発者の視点でみたときに、アクセシビリティ配慮として評価できる点

a. 製品が提供する価値

- ・ 聴覚障害者向けに美術館等のオーディオガイドを、文字、音声、手話と各種の方法で提供を行うことを試みている。最新の技術の応用として評価できる。

b. 機能面でのアクセシビリティ配慮

- ・ スマートフォンの簡単な操作で実行できる。映画鑑賞ですでに導入されているスマートグラスを美術館や博物館でも拡張させることで文化施設のアクセシビリティを実現させた点が評価できる。
- ・ WCAG 2.2 AAへの対応を進めている点は高く評価できる。

2 当事者ニーズを踏まえた開発について、優れている点

- ・ 聴覚障害者団体や11名のきこえない人に確認しながら、ユーザテストや専門家による評価を実施して開発を進めている。手話コンテンツの撮影の協力もしてもらっており、また分かりやすさにこだわって制作している。
- ・ 実装後も、フィードバック次第で簡単に内容の変更(動画の差し替え)が可能。
- ・ グループ内の障害者雇用企業(特例子会社)と連携して、ニーズを開発にフィードバックしている。実際の展示会においてもユーザフィードバックを得ている。

3 企業としての取組について、優れている点

- ・ KDDIグループとしてアクセシビリティ方針を作成し、公開(2024年3月)している。今回の応募サービスに留まらず、社内すべてのサイトにも同じように取り組む姿勢をとっている。
- ・ 社内教育として、役職/職種に合わせた教育コンテンツを提供しており、WCAGに関しては一部社員は必須受講としている。社員研修などを充実させることで、継続的に社内への浸透を図っている。

4 当事者にとって重要であるが、今後更なる配慮が期待される点(今後期待したい点)

a. 製品が提供する価値

- 音声ガイダンスの手話表示について、手話で表示するメリットが明らかになることを期待する。

b. 機能面でのアクセシビリティ配慮

- スマートグラスの応用により、聴覚障害以外の障害にも適用できる可能性があり、幅広い年齢層の障害者ニーズに対応するための改良や検証を進めることを期待する。
- ビジュアルガイドにおける手話が芸術分野において的確な表現になっているか、またスマートグラスで手話が見やすいかなどの検証を期待する。
- 日本人の多くが眼鏡をかけていることから、眼鏡の上からスマートグラスを装着できるか、また装着した状態で博物館などを歩き回れるかに関する検討を期待する。
- 実際の使用場面では、作品の前でデバイスを使用する人同士の干渉(身体的な接触)がやや気になり、対応を期待する。

c. その他(普及のための周知広報、体制構築など)

- サービスをどのように周知し、利用者を拡大するかについて工夫を期待する。
- 聴覚機能を部分的に使用する聴覚障害者もいるため、難聴団体と連携し、聴覚との同時アクセスについて検討することを期待する。
- 芸術分野の手話表現に関する検証に関する専門のろう者チームに依頼するなど、開発のパートナーの選定に今後工夫を施すことを期待する。

13. Nuevos Sistemas Tecnologicos S.L. dba NaviLens NaviLens GO (ナビレンスGO)

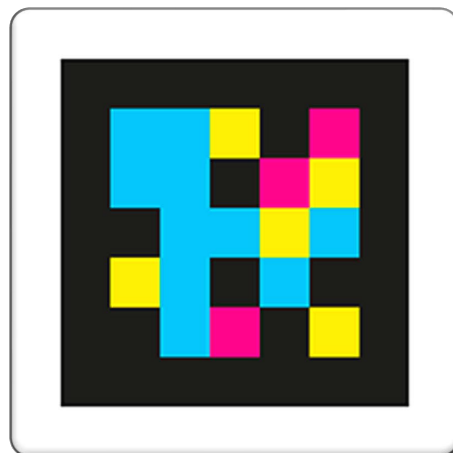
Nuevos Sistemas Tecnologicos S.L. dba NaviLens

NaviLens GO (ナビレンスGO)

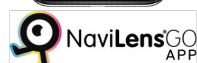
企業名	Nuevos Sistemas Tecnologicos S.L. dba NaviLens
機器・サービス名	NaviLens GO (ナビレンスGO)
問合せ先	info/atmark/navilens.com (注)スパムメール防止のため「@」を「/atmark/」と表記しています。
機器・サービスの概要	本アプリは、視覚障害者向けアプリ「ナビレンス」で利用される同じナビレンスコードを読み取り、視覚的かつ直接的な情報確認を可能にします。誰でも直感的に使いやすいインターフェースは、複雑な操作を要せず、カメラをコードに向けるだけで画面に情報が表示されます。
機器・サービスの特徴	1. 機器・サービスの機能 ● 様々な場所や要素につけられたナビレンスコードに含まれる案内情報や追加コンテンツ(音声・動画・画像など)を、ユーザーが好む形で表示できる機能を搭載しています。 ● AR技術を利用した矢印表示が可能であり、選択した目的地への方向を矢印表示で直感的に理解することが可能です。例えば、バス停にナビレンスコードを設置すると、スマホを向けるだけでバスの運行情報を読み取れます。また、駅や施設内では目的地までの方向指示の矢印を表示できます。 2. 情報アクセシビリティの配慮内容 ● 20cmのコードで約17mの距離から、さらに広角160度の範囲から読み取りが可能なため、コードに接近したり、読み取り角度を自身で調整したりする必要がありません。 ● 読み取りが高速なため、カメラをコードに向けて固定する必要がありません。手の動きに制限があったり車椅子などの利用による下方の角度からでも、簡単にコードを読み取り手元で情報が確認できます。 ● 手話ビデオ、ピクトグラム、簡易テキストや子供向けコンテンツなどの表示が可能であり、表示されるテキスト情報の文字認識が難しい場合も再生ボタンをタップすることで音声読み上げで情報が提供されます。 ● 国内、国外を問わず使用できる世界共通アプリです。37言語に対応しており、ユーザーのスマホ使用言語で自動的に情報が表示されます。

Nuevos Sistemas Tecnologicos S.L. dba NaviLens

NaviLens GO (ナビレンスGO)



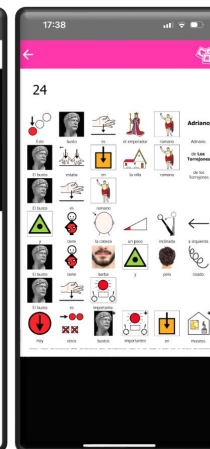
スマートフォンのカメラをナビレンスコードへ向けるだけで...



様々な方法で直接的に情報が得られます



写真やテキスト



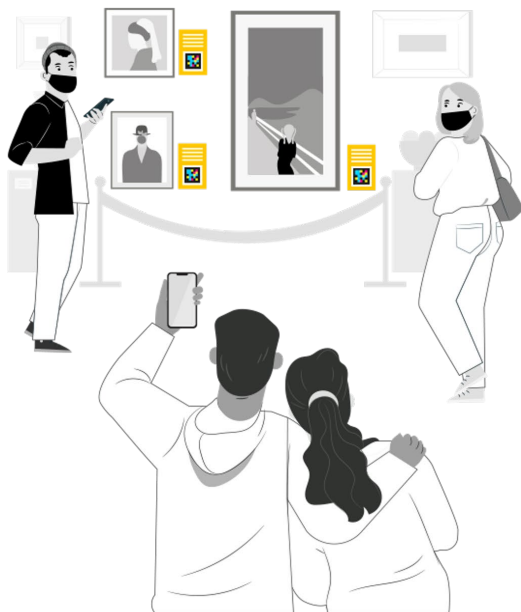
ピクトグラム



手話ビデオ



簡易テキスト



さらに、



37言語に対応。世界中どこでも同じアプリで情報へアクセスすることができます。



駅やバス停のコードでは、リアルタイムの運行情報が直接的に表示されます。

見えない、見えにくい方は、音声情報アプリ、「ナビレンス」をご利用ください。

同じコードを読み取ることで、ナビレンスでは音声やサウンドで情報をお伝えします。

※「ナビレンス」は「情報アクセシビリティ好事例2023」の選定製品です。

アプリをダウンロード!

上のナビレンスコードをアプリでスキャンして今すぐナビレンスをご体験ください。



Nuevos Sistemas Tecnologicos S.L. dba NaviLens

NaviLens GO (ナビレンスGO)

当事者ニーズを 踏まえた開発

- 二次元コードは、アリカンテ大学のモバイルビジョン研究所と共同研究で開発された。視覚障害者に読み取りやすいコードを開発した上で、社内チームに所属していた全盲スタッフも含めてアプリ「ナビレンス」の開発に着手した。このアプリを公開した際に、制限された視力で必要な情報だけを確認したい、という声も聞かれたことから本アプリの開発が始まった。
- 音声読み上げに対応した動作と対照的に、視覚情報を主に提供するアプリを開発することは、コードを設置する側に更に情報提供の機会を増やすという目的がある。いずれかのアプリを利用して、情報を取得できるユーザーが増えることで、コードを導入するメリットが高まり、様々な場所でコード実装が進められることが期待される。その結果、ユーザーには、より多くの場所で情報を取得できる機会が提供できるようになる。
- スペインや中南米の障害者団体からの意見などで、手話ビデオの挿入やピクトグラム、簡易テキストなどのコンテンツが表示できるプラットフォームになった。
- ユーザーからのフィードバックや要望に対応する形で、消費製品に付けられているコードの読み取りにフィルター機能が付け加えられた。

企業としての 組織的な取組

- 情報アクセシビリティに関する記事や出席したカンファレンスの内容、ユーザーからのフィードバック、要望、提案に関しては、全社員が参加する場で情報共有が行われている。
- 弊社はスペインにのみ拠点を置く企業であるため、コード実装にはそれぞれの国や地域の当事者団体などへコンタクトを行い協力を求めている。当事者体験からのフィードバックを分析し設置施設側と共有することで、更に有効性の高い実装を目指している。
- スペインONCE、イギリスRNIB、アメリカのライトハウス、メキシコのグアダラハラ大学CUCSなど様々な国の当事者団体と密接な関わりのもと、新しい機能の公開前の動作テストに協力を求めたり、意見交換を行なっている。
- 上記を踏まえ、アプリの改善、新機能開発、コード実装運用に関しての業務を分担しているが、全ての社員が常に情報アクセシビリティへの高い意識を持つ必要があると認識されている。アプリの専門的なアクセシビリティに関する評価は第三者機関に求める形で行われている。

1 当事者・開発者の視点でみたときに、アクセシビリティ配慮として評価できる点

a. 製品が提供する価値

- テキストを含む様々な形式で情報を得ることができることは、弱視者(ロービジョン)や視覚障害者以外の障害者、あるいは利用する年齢層の幅も広がることが期待できる。また、各国語でアプリが提供されるので、情報を読み取れさえすれば、自国語で利用できるようになる点は優れている。
- 海外での普及状況から見ても交通利用において非常に高いアクセシビリティが実現され、かつユーザビリティとしても使いやすい形へと完成度を高めている。
- 視覚障害者の、最後の数メートル問題の解決に近づく方法として大いに期待できる。

b. 機能面でのアクセシビリティ配慮

- 二次元コードの読み取り性能がよく、カメラの視野に入ればすぐにキャッチできて使いやすい。利用者にとっても、コードの提供者にとっても、利用方法が簡単である。

2 当事者ニーズを踏まえた開発について、優れている点

- 規格やガイドラインに示されている項目だけでなく、視覚障害者や車いすユーザー、子ども、高齢者などより広くニーズを集めて、実際利用する当事者の視点にたった開発が行なわれている。
- 当事者のニーズを踏まえ、手話ビデオ、ピクトグラム、簡易テキストの表示ができるプラットフォームに改善している。
- ユーザーからのフィードバック、要望、提案に関して全社員が参加する場での情報共有を行ったり、様々な国の当事者団体と密接な関わりをもって意見交換を行なっている。

3 企業としての取組について、優れている点

- ・ アクセシビリティに関する知識向上について、全社を挙げて取り組んでいる。国際的な視点からアクセシビリティに関する情報を収集している。
- ・ 基本的な情報の二次元コードを無償で提供する等の努力を続けている。
- ・ 海外では導入事例が多く、既存の交通システム全体を変革しようと非常に挑戦的かつ意欲的に取り組んでいる。

4 当事者にとって重要であるが、今後更なる配慮が期待される点(今後期待したい点)

a. 製品が提供する価値

- ・ 複数のコードを選択する方法や、道案内をシームレスに行う方法が十分に対応されているかを明らかにすることを期待する。

b. 機能面でのアクセシビリティ配慮

- ・ 視覚障害者が片手に白杖を持ちながらスマホを操作することになるため、両手が塞がる懸念への対応を期待する。
- ・ 手が不自由な障害者や手動の車いすユーザーなど、手に持って移動しながら使用することが困難な人への対処法や利便性向上を期待する。
- ・ 多言語対応が実現すれば、障害者だけでなく健常者にも広く利用される可能性があり、期待する。

c. その他(普及のための周知広報、体制構築など)

- ・ 交通利用以外でもQRコードの普及率が非常に拡大していると思われる日本において、ナビレンスコードの普及がサービスの利用拡大の前提条件となっており、普及戦略や見通しが明らかになることを期待する。
- ・ インバウンド含めて利用可能性を示すことで普及が進むことを期待する。
- ・ 公共交通機関や施設との連携を通じて、コードの設置場所を増やし、利用可能性を広げることを期待する。
- ・ ナビレンコードがどのような場所に設置されているかを示しておくことを期待する。

14. 株式会社QDレーザ 網膜投影視覚支援機器 RETISSA ON HAND

企業名	株式会社QDレーザ
機器・サービス名	網膜投影視覚支援機器 RETISSA ON HAND
問合せ先	視覚情報デバイス事業部(vid-sales/atmark/qdlaser.com) https://retissa.biz/contact (注)スパムメール防止のため「@」を「/atmark/」と表記しています。
機器・サービスの概要	網膜投影技術を手軽に利用できる手持ち型の視覚支援機器です。美術館、博物館、動物園、水族館、劇場、コンサートホール、スポーツ施設、図書館、学校などの文化・芸術、教育施設において、見えにくさのある方の情報アクセシビリティ向上に貢献します。
機器・サービスの 特徴	1. 機器・サービスの機能 ● 内蔵カメラで撮影したデジタル画像を特殊なプロジェクタから網膜に直接投影します。 ● 近視・遠視・乱視・老眼など、ピント調整機能による視力低下の影響を受けにくいです。 ● 中心視野に見えにくさのある方も、周辺の視野をうまく活用できます。 2. 情報アクセシビリティの配慮内容 ● 文化・芸術施設における新たな鑑賞サポート 音声ガイドや触察展示など、視覚以外の感覚に依存する従来の手法と異なり、視力を最大限に活用できるよう開発されています。 ● 画像処理機能の実装 コントラストや明るさの調整、白黒反転などの画像処理や最大7倍のデジタルズームが可能です。 ● 簡便な操作を実現 電源を入れるだけですぐに利用可能であるほか、色や形を変えたボタンで直感的に操作可能です。

RETISSA ON HAND 機器外観



(株)QDレーザ 網膜投影視覚支援機器 RETISSA ON HAND

当事者ニーズを
踏まえた開発

- 当社は、2013年頃より網膜投影技術を活用した機器の研究開発に着手。この10年以上にわたる開発過程において、全国の視覚障がい者団体との連携を通じ、200名以上の当事者から直接的なフィードバックを得てきました。また、眼科医、視能訓練士、盲学校教諭といった専門家との定期的な意見交換を実施し、医学的・教育的見地からの助言を製品開発に反映しています。
- 社内体制においては、視覚障がいのある社員をデバイスアドバイザーとして正規雇用。当該社員は本製品の開発プロセス全般に参画しており、ユーザー目線での実践的な評価や改善提案を行うことで、製品の有用性向上に貢献しています。
- さらに、「障害を価値に変える」というバリアバリューの理念で知られる株式会社ミライロとの事業連携により、製品の有用性評価を実施。同社の協力のもと、開発段階のプロトタイプを多様な視覚障がいのある当事者に実際に体験いただき、詳細なフィードバックを収集・分析することで、製品の完成度を高めています。

企業としての
組織的な取組

- 視覚障がいのある社員をデバイスアドバイザーとして正規雇用。
- 本製品のほかにもアクセシビリティを高める製品の開発、提供を実施。例えば、網膜投影型ビューファインダーであるRETISSA NEOVIEWER(レティッサネオビューワー)は、ソニー株式会社のコンパクトデジタルスチルカメラと組み合わせて、網膜投影カメラキット「DSC-HX99 RNV kit」として全国のソニーストアで販売中。視覚に障害があっても、写真を撮る、カメラをもって出かける、撮影した作品を共有し楽しみを分かち合うための製品として位置づけています。
- 当社は、「With My Eyes」プロジェクトを通じて、ロービジョン(弱視)者に新たな視覚体験を提供し、日常生活における視覚のバリアを乗り越えることを目指しています。視覚に制約がある人々が「見える」喜びを実感し、生活の質を向上させることを目的とし、ロービジョン者がより独立し、自らの視点で世界を楽しむことができる製品の開発に注力しています。
- 同プロジェクトの動画コンテンツや製品解説動画等を作成していますが、原則として字幕を入れています。同プロジェクト動画の一部は音声解説版も作成しており、全盲の方でも楽しめるように配慮しています。
- 美術館、博物館などの文化・芸術施設において当社機器を用いたイベントを多数開催しています。
- 利用できるかの参考にしていただくために技術の特徴を発信しているほか、全国各地に機器を実際に試すことができる体験スポットを開設しています。

1 当事者・開発者の視点でみたときに、アクセシビリティ配慮として評価できる点

a. 製品が提供する価値

- ・ 網膜に直接投影する技術を製品として実現し、ロービジョンの方々に「見る」機会を提供した。
- ・ ロービジョンの人にとっては有用な装置であり、生活を潤いのあるものに変えてくれると考えられる。
- ・ レンズに代わる新しい拡大方法で、従来の方法では視力を補えなかった人にも可能性がある。

b. 機能面でのアクセシビリティ配慮

- ・ テクノロジーを活用したアクセシビリティを新たに実現している。
- ・ ビュアー、ソニーコンパクトカメラとセットで使う専用ビューファインダーを販売している。
- ・ プロジェクトの解説動画に音声解説や字幕をつけている。

2 当事者ニーズを踏まえた開発について、優れている点

- ・ 当事者や視能訓練士などの専門家に対するヒアリングを十分におこなっている。
- ・ 10年以上にわたり、全国の視覚障害者団体と連携し、200名以上の当事者より直接フィードバックを受けながら開発している。
- ・ 当事者が訪問する前に自身が製品を利用可能かどうか(適合しているか)を知るための方法についても情報発信している。
- ・ 当事者ニーズを踏まえただけでなく独自の網膜投影技術を導入し、かつ実用可能なレベルまで開発を進めることができている。

3 企業としての取組について、優れている点

- ・ レーザ製品の新用途を開発する新規事業として多くの代替案がある中で、障害者対応製品の開発に進んでいる姿勢。
- ・ 開発したものが高価であることを見込みつつ、それがロービジョン当事者にとって大きな意義をもたらすものになるという強い信念に基づいて開発したと思われる。
- ・ 実際に試せるショールームが全国に数か所ある。

4 当事者にとって重要であるが、今後更なる配慮が期待される点(今後期待したい点)

a. 製品が提供する価値

—

b. 機能面でのアクセシビリティ配慮

- ・ 現在の機器は500gと重さがあり、片手が塞がるため、ハンドフリー化することで作業中の利用が可能になることを期待する。

c. その他(普及のための周知広報、体制構築など)

- ・ 本製品の価格が高額であることや、入手性の課題が普及のネックと思われるので、公共施設(博物館、美術館、劇場など)への常設を通じた普及を期待する。
- ・ 企業全体としてアクセシビリティを徹底し、障害者雇用を進めることで、アクセシビリティのニーズに気づき、新たなレーザ技術の活用方法が生まれる可能性に期待する。
- ・ ロービジョンの子どもたちが使用する場合の実効性や操作性、身体への負担について検証が必要であり、学校教育の文化芸術活動への活用可能性を模索することを期待する。
- ・ 晴眼者が使用した場合の安全性について、失明などのリスクがあるかどうかを明確にし、必要であれば用途に関する注意喚起が必要と思われる。

15. 株式会社SmartHR スキル管理システム

(株)SmartHR スキル管理システム

企業名	株式会社SmartHR
機器・サービス名	スキル管理システム
問合せ先	accessibility/atmark/smarthr.co.jp (注)スパムメール防止のため「@」を「/atmark/」と表記しています。
機器・サービスの概要	従業員のスキルやそれを裏づける資格の情報を管理します。スキルや資格ごとに従業員の登録状況を俯瞰して閲覧できるスキルマップから組織全体の傾向を把握できます。また、社内研修をオンライン化でき、受講履歴を管理できます。
機器・サービスの特徴	1. 機器・サービスの機能 ● 従業員の保有資格、研修の履修、経歴などの客観的な情報から、従業員の「スキル」に関するデータを収集・管理します。 ● 研修コンテンツの配信と従業員の受講管理をします。 ● 受講者ごとのステータスを一覧で可視化します。 2. 情報アクセシビリティの配慮内容 ● すべての操作をキーボードのみで行えるように設計しています。UIの配置や説明文など、細部にわたり改善を行いました。 ● スクリーンリーダーを利用するユーザーもスライドを使用したオンライン研修を受講できるように対応しています。 ● VoiceOverとNVDAを用いて検証を行いました。 ● 高齢者、障害者も使いやすく、わかりやすいよう配慮し、一貫した操作性、わかりやすい説明、視認性の高いUIを実現するよう開発しました。 ● やさしい日本語への対応を予定するなど、幅広い利用者を想定して開発しています。

(株)SmartHR スキル管理システム

スキル管理 スキルマップ 申請 バックグラウンド処理 設定 同期日:							
スキル情報の切り替え スキル CSV操作							
	経営管理部			人事総務部			営業本部
	102 管理 花子	110 管理 太郎	113 支社長 二郎	102 管理 花子	111 人事 杏果	114 労務 里佳	112 申請 承子
セキュリティ体制構築・運営	2	-	-	2	-	-	3
セキュリティマネジメント	-	3	-	-	-	-	2
インシデント対応と事業継続	3	-	5	3	2	-	4
プライバシー保護	5	-	-	5	-	5	-
セキュア設計・開発・構築	-	-	-	-	-	-	-
セキュリティ運用・保守・監視	-	-	-	-	-	-	-
▼ ビジネス変革	-	-	-	-	-	-	-
▼ 戦略・マネジメント・システム	-	-	-	-	-	-	-
ビジネス戦略策定・実行	-	-	5	-	-	-	5
プロダクトマネジメント	-	-	-	-	-	-	4
変革マネジメント	-	-	5	-	-	-	3
システムズエンジニアリング	-	-	-	-	-	-	-
エンタープライズアーキテクチャ	-	-	-	-	-	-	-
プロジェクトマネジメント	3	-	5	3	-	-	-
▼ ビジネスモデル・プロセス	-	-	-	-	-	-	-
ビジネス調査	-	-	-	-	-	-	4
11 件中 1 - 11 件 ↑ ↓							

(株)SmartHR スキル管理システム

当事者ニーズを 踏まえた開発

- 設計段階で、社内のアクセシビリティの専門家や障害当事者と話し合い、具体的な実装方法を検討しています。
- 開発メンバー全員が社内のアクセシビリティチェックリストを確認しながら開発を進めています。
- 障害者だけでなく、高齢者に対するアクセシビリティに関しても積極的に考慮しながら開発を進めています。
- 早い段階で障害当事者が試用し、見つかった問題に迅速に対応することで、障害者にとっても直感的で使いやすいものとなるように改善を実施しています。サービスのリリース前には、当事者を含むアクセシビリティテスターによりWCAG A相当のテストを実施、またアクセシビリティの専門家が承認を行っています。
- すべてのユーザーが安心して利用できる品質を確保してから製品をリリースしています。

企業としての 組織的な取組

- 2022年にアクセシビリティを専門とする部署(アクセシビリティ本部)を設立。ウェブアクセシビリティの専門家と、アクセシビリティテストを専門とする障害当事者が在籍しています。
- 製品開発については、アクセシビリティ方針とアクセシビリティガイドラインを策定しています。また、ガイドラインに沿った開発を持続するため、専門家による開発者の育成を行っています。全社向けに、アクセシビリティ研修を定期的実施しています。
- 幅広い利用者を想定し、やさしい日本語への対応を進めています。
- 精神障害や知的障害などのユーザーの操作を観察して開発にフィードバックできるよう取り組んでおります。

1 当事者・開発者の視点でみたときに、アクセシビリティ配慮として評価できる点

a. 製品が提供する価値

- ・ 社内のシステムに誰もがアクセスできることは重要である。

b. 機能面でのアクセシビリティ配慮

- ・ 開発段階からアクセシビリティへの対応を進めた結果、使いやすく、使えるシステムとなっている。
- ・ 障害者だけでなく、高齢者に対するアクセシビリティなどに積極的に取り組んでおり、また、やさしい日本語への対応など、幅広い利用者を想定している点が評価できる。

2 当事者ニーズを踏まえた開発について、優れている点

- ・ 社内に障害を持つアクセシビリティの専門家を擁し、デザインやテストなどに関与して、当事者のニーズを製品にフィードバックしている。
- ・ デザインの段階から開発メンバー全員で社内のアクセシビリティのチェックリストをもとに確認しながら開発を進めたり、精神障害や知的障害などのユーザーの操作を観察してフィードバックしている。
- ・ サービスのリリース前に当事者を含めユーザーテストを行い専門家が承認をしている。

3 企業としての取組について、優れている点

- ・ アクセシビリティ研修等を定期的実施し、社内におけるアクセシビリティ対応を徹底している。
- ・ アクセシビリティを専門とする部署を設立するなど組織的にこの問題に取り組んでいる。
- ・ 当事者社員と共に開発を行ったり、開発者を育成している。障害当事者の方がテスターとなる取組を実施。
- ・ 社内の障害当事者によるアクセシビリティテストやWCAGのテストの実施など検証と改良に努力している。
- ・ アクセシビリティ方針とガイドラインを策定し、社内だけでなく広く理解を促す取組を行っている。

4 当事者にとって重要であるが、今後更なる配慮が期待される点(今後期待したい点)

a. 製品が提供する価値

- 現在は自社内やアクティブシニアを主な対象としているが、より広い範囲のユーザーや当事者ニーズを取り込むことを期待する。
- 去年の応募は人事管理、本年はスキル管理についてであるが、他の人事管理システム(たとえば、健康経営関係)についても対応を期待する。

b. 機能面でのアクセシビリティ配慮

- コントラスト、ターゲットサイズ、タイムアウト、複数手段などのアクセシビリティ要件が満たされていない点への改善を期待する。
- 字幕付きの説明用動画を期待する。

c. その他(普及のための周知広報、体制構築など)

- 社内に限らず、より広く当事者ニーズを取り込んだシステム開発を期待する。
- 「やさしい日本語」を追加するなど発展可能性は期待できるものの、字幕や音声ガイドといった人手やコスト等の問題への対応を期待する。
- 障害特性に配慮したテストの実施を期待する。

16. Uni-Voice事業企画株式会社 耳で聴くハザードマップ

Uni-Voice事業企画(株) 耳で聴くハザードマップ

企業名	Uni-Voice事業企画株式会社
機器・サービス名	耳で聴くハザードマップ
問合せ先	info/atmark/uni-voice.co.jp (注)スパムメール防止のため「@」を「/atmark/」と表記しています。
機器・サービスの概要	視覚障がい者がハザードマップの内容を理解できるよう、地図面の情報を音声で提供するサービスです。目から情報を取得することが困難な方たちにも災害リスク情報や警報・注意報、避難場所の情報を音声で伝えることができるため、いざという時の避難行動に役立てることができます。
機器・サービスの特徴	1. 機器・サービスの機能 ● スマートフォンのGPSで現在地情報を取得し、その情報に紐づいた気象情報や水害に関するハザードマップ情報を提供。その地点だけでなく、周囲の情報(近くの川や海岸、半径～mのリスク情報)も併せて伝えるため、晴眼者が紙のハザードマップで得られる情報と差分なく情報提供が可能になります。 ● 最寄りの避難場所へはコンパス機能を使って音声と振動で誘導するため、地図が読めない視覚障がい者でも避難場所の位置を把握することが可能です。 ● 耳で聴くハザードマップは、音声コード読み取り用アプリ「Uni-Voice Blind」のコンテンツ。そのため場所や時間を選ばず、“自分で”今いる場所の災害リスク情報を即座に知ることができます。 2. 情報アクセシビリティの配慮内容 ● スクリーンリーダーに準拠しているため、視覚障がい者だけでなく、点字ディスプレイを介して盲ろう者も利用可能。 ● 色のコントラストに配慮し、大きくて見やすいボタンを採用。 ● 多言語(英語、中国語[簡体字・繁体字]、韓国語、ベトナム語)にも対応しているため、日本語に不慣れな在留外国人や訪日外国人にも音声とテキストで情報を伝えることが可能。

Uni-Voice事業企画(株) 耳で聴くハザードマップ

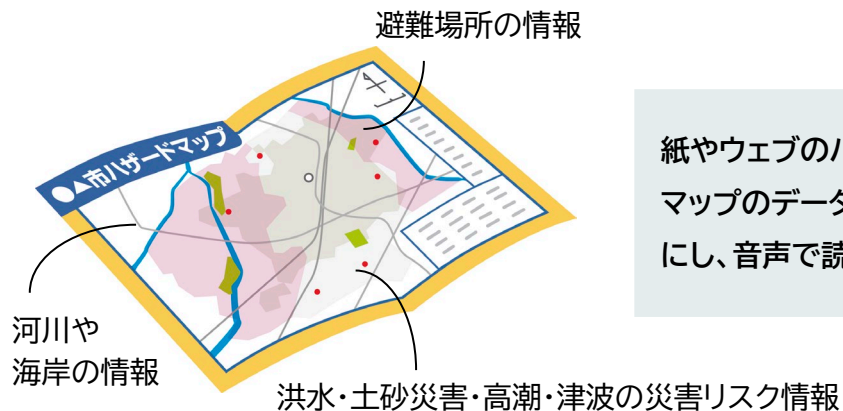
耳で聴くハザードマップは、音声コード読み取り用アプリである「Uni-Voice Blind」のコンテンツです。



Uni-Voice Blind



ハザードマップ画面



紙やウェブのハザードマップのデータをテキストにし、音声で読み上げ



現在地の情報画面

避難情報

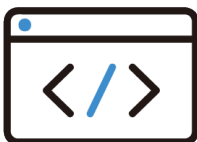
気象情報や警報・注意報

5 緊急安全確保

4 避難指示

3 高齢者等避難

自治体からの新着情報や防災ガイドブック



現在地に関する避難情報、警報・注意報、気象情報などのデータを集約し、音声で読み上げ

自治体ホームページの新着情報

警報・注意報
気象情報

音声読み上げ形式の防災ガイドブック

避難情報

情報がこれ一つに

画面を開けばすぐ分かる



Uni-Voice事業企画(株) 耳で聴くハザードマップ

当事者ニーズを 踏まえた開発

- 近年、日本各地で局地的大雨や線状降水帯による集中豪雨などが頻繁に発生しており、ニュースでも「お住まいの地域のハザードマップをご確認ください」とよく耳にするようになりました。
こうした中で視覚障害当事者からも「自分たちでもわかるハザードマップはないのか」といった声を多く受けるようになりましたが、ハザードマップの多くは紙やウェブサイト上にあるものがほとんど。目が見えない、見えにくい視覚障がい者はこの情報に自分でアクセスすることができていませんでした。
こうした状況を何とかしたい、そうした思いで耳で聴くハザードマップの開発がはじまりました。
- 開発の段階では日本視覚障がい情報普及支援協会の方たちと連携し、スクリーンリーダーでの操作性やアイコンの大きさや色のコントラストなどといった使い勝手の面での意見をもらい、改善を重ねてきました。リリース後においても、当事者宛に実施したアンケートや問合せフォームでいただいた意見や要望などを基に機能のアップデートを実施。「すべての視覚障がい者が使えるハザードマップ」として今後も品質の向上に努めてまいります。

企業としての 組織的な取組

- 弊社では日頃より視覚障がい当事者の方々からの声をもとに製品やサービスの開発を行っています。この”声”というのは、もちろん日常生活において不便と感じていることへの悩みの声です。その声から、弊社では音声コード読み取り用アプリをはじめとして、音声読み上げ形式のウェブサイト「耳で聴くWebサイト」や、ハザードマップの内容を音声で聴くことができる「耳で聴くハザードマップ」の開発を行ってきました。
すべての視覚障がい者が晴眼者と同じように「読める」社会を目指し、今後も製品やサービスの開発に取り組んでいきます。

1 当事者・開発者の視点でみたときに、アクセシビリティ配慮として評価できる点

a. 製品が提供する価値

- ・ 障害のある人だからこそハザードマップのアクセシビリティを高めることは命に関わる。とても重要な開発である。
- ・ このような取組が行なわれることで、防災や災害時での対応について、視覚障害者にとって非常に大きな影響を与えることと思われる。
- ・ 視覚障害者にとって地図のような二次元的な情報は読み取りが難しい。特に災害時の避難のような重要な情報を音声で疑似体験できる点は優れている。

b. 機能面でのアクセシビリティ配慮

- ・ コンパス等、利用者の立場に立った機能が備わっている点が評価できる。
- ・ スクリーンリーダーへの対応で、音声だけでなく、点字の出力にも対応している点が評価できる。

2 当事者ニーズを踏まえた開発について、優れている点

- ・ 社内の全盲/弱視の当事者にヒアリング、操作性や表示の改善を行っており、リリース後も意見を踏まえてアップデートを実施している。
- ・ 日本視覚障がい情報普及支援協会とパートナーシップを組み、視覚障害者の多様なニーズを反映させて開発を進めている。

3 企業としての取組について、優れている点

- ・ 障害者団体とも連携しており、アプリだけでなく、社として情報発信の際にもアクセシビリティに対応している。
- ・ 特定の視覚障害者のニーズに偏らず、視覚障害のダイバーシティを念頭に置いて実用に耐えうるレベルになるように対応を進めている。
- ・ また、情報入手に関する課題は外国人にも当てはまるものであり、そのような方たちに向けてアクセシビリティ向上に努めている。

4 当事者にとって重要であるが、今後更なる配慮が期待される点(今後期待したい点)

a. 製品が提供する価値

- ・ 現在のアプリは事前学習を目的としているが、実際の災害時におけるハザードマップの状況の変動や、避難ルートの変動などに事前学習での対応を今後期待する。
- ・ 今回は水害ハザードマップに関することであるが、水害以外のハザードマップにも対応することで、視覚障害者にとってさらに有用なアプリになることを期待する。
- ・ 平常時の閲覧の意味を理解するが、災害時に切実に必要になるものであり、さらなる工夫を期待したい。

b. 機能面でのアクセシビリティ配慮

- ・ 経路案内において、信号や障害物の検知など、安全に誘導するための画像認識やガイド機能の充実を期待する。

c. その他(普及のための周知広報、体制構築など)

- ・ 本アプリの有用性を広く認知してもらうため、視覚障害者への情報提供、多くの人に知ってもらう工夫や、地方公共団体への利用呼びかけが重要であり、対応を期待する。